



|              |                                                                             |
|--------------|-----------------------------------------------------------------------------|
| Title        | デンマーク語の母音                                                                   |
| Author(s)    | 間瀬, 英夫                                                                      |
| Citation     | IDUN. 1994, 11, p. 1-42                                                     |
| Version Type | VoR                                                                         |
| URL          | <a href="https://doi.org/10.18910/95783">https://doi.org/10.18910/95783</a> |
| rights       |                                                                             |
| Note         |                                                                             |

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

# デンマーク語の母音

間瀬 英夫

## 1. 本稿の主旨と前提

### 1.1. 序

拙論 1974 を初め、いくつかの論文でデンマーク語の母音について扱ってきたが、その後の20年間に、デンマーク語音韻論や音声学に関していくつかの重要な著作がデンマークで発表された。また、90年代になって2冊の発音辞典も現れた。これらの文献を新たに参考にして、母音に関する語レベルの音韻論を改めてまとめてみようと思う。今回の目的は主として外国人がデンマーク語（以下、「デ語」と略す）の音韻、音声を学ぶときに必要な知識を獲得できるようにすることにあるが、理論的にも矛盾のない記述を目指す。

本稿での音声形は、Hansen 1990 および Brink *et al.* 1991 の2冊の発音辞典に準拠する（⇒1.2; ⇒は本稿の参照箇所を示す）。これら2冊の発音辞典のほかに、音韻解釈に関しては主として以下の論文、著書を参考にするが、これらは参照頻度が高いため、本稿では以下のような省略記号で表すことがある（本稿末「参考文献」参照）。

発音辞典：PMH=Hansen, Peter Molbæk 1990.

SDU=Brink, Lars *et al.* 1991.

著書等：DR=Brink, Lars & Jørgen Lund 1975.

B/W=Basbøll, Hans & Johannes Wagner 1985.

T/T=Thorsen, Nina & Oluf Thorsen 1986.

B-C=Becker-Christensen, Christian 1988.

Becker-Christensen 1988 は純音韻論の著作ではなく、文字（＝綴り字）と発音の関係を記述する正音学の著作であるが、185頁以下の複合形の音声変化の詳細な記述および220頁から315頁までの語彙データは非常に有用である。本稿はこの語彙データを大いに利用した。

対象とする言語は Hansen 1990, Basbøll 1969, Basbøll & Wagner 1985, Thorsen & Thorsen 1986 (1977 初版), Becker-Christensen 1988 など記述されている言語であるが、これは主として、Basbøll 1969 の言う ASC (=Advanced Standard Copenhagen) で、SDU が “yngre” と呼ぶ世代の言語、すなわち、1931年以後生まれの標準語話者の言語である。

母音の音質に影響を与える要素としては、隣接する r-音だけを考慮するが、解釈次第では後続鼻子音もとくに短母音に対して影響を与えるとすることもできる（拙論 1992 参照）。本稿では、実現形（＝変異音）分布規則を簡潔にするために、Thorsen & Thorsen 1986, Basbøll & Wagner 1985 などと同様に、r-音だけを影響要素とする。

### 1.2. 発音形について

上述のように、本稿での音声形は、Hansen 1990 および Brink *et al.* 1991 の2冊の発音辞典に準拠する。PMH の示す発音形は、語を明瞭に発音するときの形である。そして原則として1個の語には1個の発音形しか示されない。ときに2個以上が示されることがあるが、最初の形と第2以下の形の間に必ずしも優先順位はない (PMH: 18; 詳細は、拙論 1990: 103f., 117ff. 参照)。

SDU の見出し語の直後の発音形は「明瞭形」(*distinkthedsform*) と称され、1930年生まれの標準語話者がとくに語を単独で発音するときに、自然にもっとも明瞭に発音する場合の形とされる。この形では [ə] は非同化形、すなわちそのままの形で示される。次に、同じ1行目に第2の発音形として「主要形」(*hovedform*) が示されることがある。これは同上話者がふつうの、自然な速度の話し言葉で自然に発音するときの形とされる。明瞭形と主要形が同じ場合には等号 (“=”) で示される。この2個以外に発音形が示されない場合には、これらが全ての世代の全ての標準語に当てはまる (デ語では標準語を必ずしも1個とは考えない)。なお、現実には主要形がまったく示されないことも多々ある。2行目の最初の発音形以下は「主要形の後のコメントなしの発音形」(*ukommenterede former efter hovedformen*) となるが、2行目の最初の発音形 (これを本稿では「第3形」と呼ぶことにする) は、標準語のすべての話者に用いられる一般的な変異形とされる。第4形以下は、とくにコメントがないかぎり、適用頻度が低くなる (以上、SDU: 9)。この第3形は [ə] が (同化可能の条件下にあれば) 前または後の音に同化された形で示される。ところで、SDU では見出し語の発音形のほかに、一部の語に屈折形の発音形が示されているが、これら屈折形の発音形は上述の「明瞭形」ではなく、第3形またはそれに近いものが示されている。この事実は、第1形の「明瞭形」および第2形の「主要形」との対応が不明瞭となり、問題であろう。なお、SDU で “unge” と呼ぶ世代は1950年以後生まれの世代、“ældre” とするのは1910年以後生まれの世代である。本稿では、SDU の記述を参照する場合には上述の第3形が大体 “yngre” の発音に相当するので、この形をもっとも重視するが、弱母音の [ə] は、PMH と同様に、(/rə/ が [ɔ, ɑ, ɔ̃] となる場合を除き) 周囲の音に同化される前の音声形、すなわち「明瞭な」発音形を用いる。/ə/ の音声的同化については § 4 で述べる。

### 1.3. 短母音について

本稿では、短母音を、原則として PMH および SDU において短母音 (= 短母音状音) で表記されている母音とする。短母音 (状音) は3種に分けられる。

(1) 本来の短母音で長母音状音で発音されることのないもの。

(2) 独立語形のときは長母音であるが、複合形 (= 合成形、たとえば *sprogkursus*, および派生形、たとえば *sproglig*) で強強勢をもつ複合要素 (通常、第1要素) となるとき、および屈折形 (とくに、形容詞の -t 形、規則動詞第2類の -t(e) 形)

で短母音状音になるもの。これを「形態音韻的短音化」による「短音化母音」と呼ぶ。

(3)「文体的短音化」(Basbøll & Wagner: “stilistiske Kürzung”)による短母音状音。これは、音節末接近音(＝無摩擦継続音)[j, w, ɹ, ø]の直前で長母音状音が随意的に短音化されるもので、原則として長母音状音の音質はそのまま保持されると言われる(SDU Nummerhenvisninger nr. 8, 9; DR: 221ff. 等)。

非常に抽象度の高い音韻解釈を行う場合、(2)は長母音音素の実現形として扱うことも可能であろうが、本稿では、(2)の型は短母音音素の実現形として扱う。(3)の型の短音化は随意的であるので、音声レベルでの短音化と解釈し、短母音音素としては扱わない。これについては§3.8で述べる。

以下では、「長母音」および「短母音」という述語を音韻的にも音声的にも使用するが、誤解が起こりうる場合には、音韻的長・短母音を長・短母音音素、音声的長・短母音を長・短母音状音とする。

#### 1.4. 音声記号

音声記号は、Dania を筆者が一部変更した「ダニア改良式」を用いる(次頁の表1参照)。以下ではこの表記法を DnMs と称する(間瀬・新谷 1993: 82 参照)。この表記法は筆者が1979年以来、デ語入門書等で用いてきたものである(参考文献の末尾参照)。(なお、筆者の記号用法に類似のものが、最近のデ語発音教本 Søggaard 1990 に見られる。) Dania と DnMs の相違点は次の通りである。Dania(以下では、Da. と省略することがある)は斜字体で書かれるが、本稿では一貫してローマン体で示す。

Dania: [á ä a â(:) a(:) á(:)] [æ(:)] [s n]

DnMs: [â ä a â(:) a(:) â(:)] [æ(:)] [ʃ ɳ]

Dania の [j, i] は、本稿では両者とも PMH と同様に [j] とする。

諸家の示す音声記号は Dania, IPA あるいはその中間のものであるが、各人が示す IPA 音価との対応を、表2に示す。(B/W では IPA を用いているが、対応の Dania も示している。なお、B/W の [æ(:)] のうちの短音形 [æ] は“変異音”の記述中には見られず、語例中にしか見られない。)

DnMs [ä] は [r] の後のみに現れる音で、Dania 系の諸家は次のように記述している(以下は Dania 表記)。 $[\alpha]$  から  $[\acute{\alpha}]$  への glide, すなわち  $[\alpha\acute{\alpha}]$  (= $[\alpha i_{\tau}]$ ) (DR: 128); 極端に短い二重母音, 大体  $[\alpha\alpha]$  (SDU: 86);  $[\alpha]$  に近いが、 $[\alpha]$  から  $[\alpha]$  への短い二重母音 (B-C: 46)。その他の諸家は単母音(monoftong)として表記している。すなわち、IPA  $[\alpha_{\tau}]$  (PMH), IPA  $[\epsilon]$  (B/W), IPA  $[\epsilon_{\tau}/\alpha_{\tau}]$  (T/T)。Dania 系では一種の二重母音として扱うためか、単母音の基本母音図に示されることはないが、わずかに Heger 1975: 66 で  $[\epsilon_{\tau}]$  の位置に示されている。これらの事情から、本稿の  $[\ddot{a}]$  は IPA  $[\epsilon, \epsilon_{\tau}, \alpha_{\tau}]$  の諸音をカバーする記号として用いることにする。なお、本稿の  $[\ddot{r}\ddot{a}]$ ,  $[\acute{\alpha}i]$  の母音  $[\ddot{a}]$ ,  $[\acute{\alpha}]$  は、PMH および B/W では両音とも本稿の  $[\acute{\alpha}]$  に対応する記号で表記されている。

表1 音声記号 (DnMs)

| 母音<br>(Vokaler)     | 前 舌<br>FORTUNGEVOK. |               | 中 舌<br>MIDTUNGEVOK. | 後 舌<br>BAGTUNGEVOK. |               |
|---------------------|---------------------|---------------|---------------------|---------------------|---------------|
|                     | 非 円 唇<br>URUNDET    | 円 唇<br>RUNDET | 非 円 唇<br>URUNDET    | 非 円 唇<br>URUNDET    | 円 唇<br>RUNDET |
| 狭 □<br>SNÆVER       | i(:)                | y(:)          |                     |                     | u(:)          |
| 半 狭 □<br>HALVSNÆVER | e(:)                | ø(:)          | ə                   |                     | o(:)          |
| 半 広 □<br>HALVABEN   | æ(:)                | ö(:)          |                     |                     | å(:)          |
| 広 □<br>ABEN         | â(:)                | ô(:)          |                     |                     | å(:)          |
| 超 広 □<br>EKSTRAABEN | a(:) ä              | (ɔ)           | ɑ(:)                |                     | ɔ             |

| 子音<br>(Konsonanter)            | 両唇<br>BI-LABIAL | 唇歯<br>LABIO-DENTAL | 歯<br>DENTAL | 歯茎<br>硬口蓋<br>ALVEO-PALAT. | 硬口蓋<br>PALA-TAL | 軟口蓋<br>VELÆR | 口蓋垂<br>UVULÆR | 咽頭<br>FARYN-GAL | 声門<br>LARYN-GAL |
|--------------------------------|-----------------|--------------------|-------------|---------------------------|-----------------|--------------|---------------|-----------------|-----------------|
| 閉鎖音 (無声)<br>LUKKELYD<br>USTENT |                 |                    |             |                           |                 |              |               |                 |                 |
| 有気<br>ASPIRERET                | p               |                    | t           |                           |                 | k            |               |                 |                 |
| 無気<br>UASPIRERET               | b               |                    | d           |                           |                 | g            |               |                 |                 |
| 摩擦音 無声<br>HÅRMELYD<br>USTENT   |                 | f                  | s           | ʃ                         |                 |              |               |                 | h               |
| 有聲<br>STEMT                    |                 | v                  |             |                           | (j)             |              | r             |                 |                 |
| 側音 (有聲)<br>LATERAL             |                 |                    | l           |                           |                 |              |               |                 |                 |
| 鼻音 (有聲)<br>NASAL               | m               |                    | n           |                           |                 | ŋ            |               |                 |                 |
| 接近音 (有聲)<br>APPROXIMANT        | (w)             |                    | ɒ           |                           | j               | w            |               | ɹ               |                 |

その他：

\* [']=stød. 但し，長母音に stød が置かれるときは，長音記号 [:] と併せて [':] と表記する。

\* [']=第1強勢，[ɿ]=第2強勢，記号なし=弱強勢（但し，必要な場合には [o] を用いる）。

なお，例語の発音表記の際に，語の第1音節にのみ第1強勢が置かれる場合には，強勢記号 ['] は省略する。

表2 DnMs, Dania, IPA の記号対応

PMH, T/T, B/W の記号で, DnMs, Dania と異なる記号・音価をもつものは各々の欄の左側に示す. DR と SDU の IPA 表記が共通の場合は, 両者の中間に示す. なお, DR, SDU では IPA 対応形の音長は示していない. T/T は基本母音図を基に作成.

| DnMs | Da-<br>nia | IPA               |                                |           |                    |           |                                   |             |                                   |
|------|------------|-------------------|--------------------------------|-----------|--------------------|-----------|-----------------------------------|-------------|-----------------------------------|
|      |            | DR :<br>60        | SDU :<br>85ff.                 | PMH : 8f. |                    | T/T : 138 |                                   | B/W : 19ff. |                                   |
|      |            |                   |                                | PMH       | IPA                | T/T       | IPA                               | B/W         | IPA                               |
| i(:) | i          |                   | i                              |           | i(:)               |           | i(:)                              |             | i(:)                              |
| e(:) | e          |                   | e <sub>+</sub>                 |           | e <sub>+</sub> (:) |           | e <sub>+</sub> (:)                |             | e <sub>+</sub> (:)                |
| æ(:) | æ          |                   | e <sub>τ</sub>                 |           | e(:)               |           | e(:)                              |             | e <sub>τ</sub> (:)                |
| â(:) | â          |                   | ε                              |           | ε:                 |           | ε:                                |             | ε(:)                              |
| a:   |            |                   |                                |           |                    | a:        | ε <sub>τ</sub> :/a <sub>+</sub> : |             |                                   |
| a    | a          | æ                 | a <sub>+</sub> /æ              |           | ε <sub>τ</sub>     | a         | ε <sub>τ</sub> /a <sub>+</sub>    |             | ε <sub>τ</sub> /a <sub>+</sub> /æ |
| ä    |            |                   |                                | æ(:)      | a <sub>+</sub> (:) | a         | ε <sub>τ</sub> /a <sub>+</sub>    |             |                                   |
|      | ä          | αq̇               | αq̇                            |           |                    |           |                                   |             |                                   |
| α(:) | α          |                   | a <sub>-</sub> /a <sub>+</sub> |           | a(:)               |           | a <sub>-</sub> (:)                | a(:)        | a <sub>+</sub> (:)                |
|      | ä          |                   |                                |           |                    |           |                                   | α           | a                                 |
|      | ä          |                   | a <sub>+</sub> -               |           |                    |           |                                   |             |                                   |
| y(:) | y          | y-                | y                              |           | y(:)               |           | y(:)                              |             | y(:)                              |
| ø(:) | ø          | ø <sub>+</sub> -  | ø <sub>+</sub>                 |           | ø <sub>+</sub> (:) |           | ø <sub>+</sub> (:)                |             | ø <sub>+</sub> (:)                |
| ö(:) | ö          | ø <sub>τ</sub> -  | ø <sub>τ</sub>                 |           | ø(:)               |           | ø <sub>τ</sub> (:)                |             | ø <sub>τ</sub> (:)                |
| ö(:) | ö          | æ-                | æ                              |           | æ <sub>τ</sub> (:) |           | æ(:)                              |             | æ <sub>τ</sub> (:)                |
|      | ö          | æ <sub>τ</sub> -  | æ <sub>τ</sub>                 |           |                    |           |                                   |             |                                   |
| ø    | ø          |                   | ø <sub>+</sub> +æ <sub>τ</sub> |           |                    |           | æ <sub>τ</sub>                    |             |                                   |
| u(:) | u          |                   | u                              |           | u(:)               |           | u(:)                              |             | u(:)                              |
| o(:) | o          | o <sub>+</sub>    | o <sub>+</sub>                 |           | o <sub>+</sub> (:) |           | o <sub>+</sub> (:)                |             | o <sub>+</sub> (:)                |
| å(:) | å          |                   | o <sub>+</sub> +               |           | o(:)               |           | o <sub>+</sub> +(:)               |             | o <sub>+</sub> +c                 |
| å(:) | å          |                   | o <sub>τ</sub>                 |           | o(:)               |           | o(:)                              |             | o <sub>+</sub> (:)                |
| o    | o          | æ-/ø <sub>+</sub> | ø <sub>+</sub> +               |           | o <sub>τ</sub>     |           | o <sub>τ</sub> +                  |             | Λ-ɔ                               |
|      |            |                   |                                |           |                    |           |                                   | e           | e                                 |
| ə    | ə          |                   | ə                              |           | ə                  |           | ə                                 |             | ə                                 |
| j    | j, i       |                   | i, e                           | j         | i                  |           | i                                 |             | i                                 |
| w    | w          |                   | u, o                           | w         | u                  |           | u                                 |             | u                                 |
| ɹ    | ɹ          |                   | ɹ, q, e                        | ɹ         | ɹ                  |           | e                                 |             | e                                 |

### 1.5. 音環境および実現形について

音環境とは、当該母音と同一音節中の前および後の音を含む音環境のこととする。§ 1.1 末尾で述べたように、母音の音価に影響を与える要素としては /r/ のみとする。音環境を示す場合、この /r/ を“R”と記し、その他の音を“X”と記す。但し、「その他の音」には何も無い、すなわち無音の場合も含む。音環境、たとえば“X\_R”は「XとRの間に当該母音が現れる」と読む。“\_R”は「音節頭はXでもRでもよい」と読む。また、たとえば“X[e]/R[æ]”は「Xの後では[e]、Rの後では[æ]になる」と読む。

このほか、語彙頻度に関係する音として、母音に後続する鼻子音がある。この鼻子音を“N”と記し、この鼻子音が後続する環境を「鼻子音環境」と呼ぶ。Nは母音の音価に影響するものではないので、上述の“X”，すなわち「その他の音」に含まれる音である。それゆえ、鼻子音環境の母音の頻度に関係する記述を行う場合にのみ、たとえば“X\_N”のように音環境を指定するが、その他の場合には、NはXに含まれるものとする。

本稿では、一般に「変異音」と呼ばれる音単位は、原則として「実現形」と呼ぶ。この表現を用いる理由は、「ある音素がある音声形で実現される」という意味をもたせるためである。

### 1.6. 長・短母音の対立

デ語母音には「長・短」という音長による音韻的対立がある。しかし、ここでは音韻解釈を行う前の段階で、音韻解釈次第でペアがずれることがあるので(⇒3.5)、音声的に同じまたは類似する長・短母音のペアを示すことにするが、大筋では長・短母音音素の実現形の対立である。(以下では、語の第1音節にのみ強強勢がある場合には、強強勢記号 ['] を省略して示す。)

|              |                   |                |                |
|--------------|-------------------|----------------|----------------|
| mil [mi':l]  | - mild [mil']     | hvile [vi:lə]  | - vilde [vilə] |
| sen [se:n]   | - sind [sen']     | hede [he:ðə]   | - hedde [heðə] |
| hæl [hæ:l]   | - held [hæl']     | læse [læ:sə]   | - læsse [læsə] |
| hval [vå:l]  | - valg [val'(j)]  | kane [ká:nə]   | - kande [kanə] |
| gran [grɑ:n] | - gran [græn']    | rane [rɑ:nə]   | - rande [rənə] |
| hyl [hy:l]   | - hylde [hyl']    | hyle [hy:lə]   | - hylde [hylə] |
| føl! [fø:l]  | - følg! [føl'(j)] | køle [kø:lə]   | - kølle [kølə] |
| fugl [fu:l]  | - fuld [ful']     | kule [ku:lə]   | - kulde [kulə] |
| jog [jo:]    | - jo [jo]         | fokus [fo:kus] | - foto [foto]  |
| lån [lå:n]   | - lund [lån']     | måne [må:nə]   | - munde [månə] |

語の日本語の意味については、§ 5「例語リスト」参照されたい。また、以下の記述中の例語の発音および意味についても、「例語リスト」を参照されたい。

## 2. 長母音音素とその実現形

### 2.1. 序

本章では文体的短音化（⇒1.3）は取り上げない．これについては § 3.8 で述べる．

長・短完全母音の後の /-rə/ は /r/ が独立の音とはならず，/ə/ と融合し，全体で [o] になる ([ð(:)], [ɑ(:)] の後では各々 [â], [α]). たとえば lære [læ:ɔ] (cf. lær! [læ:ɹ]). 詳細は § 4.2.1 を参照．

以下，本章で示す語例のうち，例外と明記しないかぎり，単音節語形中の長母音状音は stød をとる．但し，長母音の記述中では，たとえば「/i:/ は [i:] となる」というように，stød を付さないで示す．

表 3 長母音音素と実現形

|                                 | X__X                       | R__X                                  | __R                          |
|---------------------------------|----------------------------|---------------------------------------|------------------------------|
| /i:/ [i:]                       | vi(e) mile lide            | fri ride gribe                        | giver <sup>1</sup> mire lire |
| /e:/ [e:]                       | ve mele lede               | /e:/<br>tre rede rebe<br>træ træ ræbe | sker mere flere              |
| /æ:/ [æ:]<br>[æ:/â:]            | fæ mæle slæde              |                                       | gær mære lære                |
| /a:/ [â:]<br>[α:]<br>/a:r/ [α:] | tab male lade <sup>2</sup> | drab grade skrabe                     | skar mare klare              |
| /y:/ [y:]                       | sy lyne byde               | gry gryde krybe                       | dyr myre fyre                |
| /ø:/ [ø:]                       | sø Bøhne bøde              | /ø:/<br>frø røde røbe                 | dør <sup>3</sup> møre føre   |
| /ö:/ [ö:]<br>[ö:/ô:]            | bøh høne                   |                                       | dør <sup>4</sup> smøre gøre  |
| /u:/ [u:]                       | snu mule pude              | ru rude grube                         | tur mure bure                |
| /o:/ [o:]                       | sno mole pode              | ro rode robe                          | stor more bore               |
| /å:/ [â:]<br>/å:r/ [â:]         | nå <sup>5</sup> måle både  | rå råde råbe                          | tår mære bære                |

1. giver [gi:ˈɹ]; 2. lade [ʌ]; 3. dør [dø:]; 4. dør [dø:]; 5. nå [nå].

単音節形は bøh を除き，stød をもつ．

[名] = 名詞，[形] = 形容詞，[動] = 動詞，[代] = 代名詞，[副] = 副詞，[前置] = 前置詞，

[接] = 接続詞，[間投] = 間投詞)

## 2.2. 前舌非円唇長母音 /i:/, /e:/, /æ:/

X\_\_X環境では vi(e) [viː]–ve [veː]–fæ [fæː] あるいは mile [miːlə]–mele [meːlə]–mæle [mæːlə] のように /i:/, /e:/, /æ:/ の3個の音素の対立がある。

R\_\_X環境では、/e:/ と /æ:/ は音韻的対立（区別）が失われ、音声形 [æ:] のみが見れる。R\_\_X環境におけるこの中和形は /e:/ の実現形と解釈する。というのは、もしこれを /æ:/ とすると、同環境では /e:/ がなくて、/i:/ と /æ:/ だけがあるということになるが、これは体系的には不自然である。したがって、音韻的には /i:/ と /e:/ のみが見れると解釈する。しかし、音声的には [æ:] は X\_\_X環境の /æ:/ の実現形と同じ（または、より広口の）母音状音になることは事実である。

この中和形の実現形は [æ:] のほかに [ä:] もある。SDU Nummerhenvvisninger nr. 42 および nr. 46 によれば、/re:/ の実現形は [æ:] または [ä:] またはその中間形であり、これらの実現形は ældre にも yngre にもみられる。B-C: 107f. でも両音を認めている。これらの音の違いは音韻的なものではなく、個人間の発音上の違いである。つまり、各個人はいずれかの1個の実現形を用いる。本稿では PMH および SDU の標準表記に従って、[æ:] のみを用いる。

なお、græde は [græːðə] ではなく、[gräːðə] になる。この1語は本稿では例外とみなすが、例外としない場合は、T/T: 138 の解釈のように R/æ:/ としてもよい。（なお、T/T では græde を [græːðə] と発音する人もあるという。SDU græde の項にも同様の記述がある。）

X/R\_\_R環境では、/i:/, /e:/ は各々 [i:], [e:] のままであるが、/æ:/ の実現形は [æ:] または [ä:] になる。この場合も両音の相違は個人間のそれである。SDU Nummerhenvvisninger nr. 48 によれば、[äː, ä:, (ä)] は多くの yngre および大多数の unge で用いられる。SDU の表記では、たとえば sær, lære は [sæːɹ, sæɹː], [læːɔ] のように、短音化形を含め、全て [æ] の音質のみが用いられているが、PMH では [sæːɹ, sæɹː], [læːɔ, læːɔ] のように長音形でも短音形でも [æ] と [ä] の音質が用いられている。但し、単音節形の短音化形は [æ] ではなく、[ä] のみが見られている。この [äɹ] は短母音音素 /ær/（または /är/）の実現形と同じ音質になる（⇒3.2.3）。また、/æ:/R（および R/e:/）の実現形としての [ä:] は、非R環境の /a:/ の実現形 [ä:] と同一の音であるが、この X[ä:] と /æ:/R（および R/e:/）の実現形である [ä:] とは同一音環境で重複する（同一音環境に見れる）ことはない（表3参照）。

### 補記1

SDU の見出し語直後の発音形、すなわち1930年生まれの話者の「明瞭形」では、綴り字 <re>, <ræ>（以下、綴り字は <> に包む）が長母音を表すとき、<re> は Da. [rœi] (=DnMs [ræj]), <ræ> は Da. [ræ:] (=DnMs [ræ:]) で表記されている。

したがって、この区別を行う話者の言語では /re:/ と /ræ:/ は中和しないことになる。しかしながら、すでに Basbøll 1969: 35 に明記されているように、ASC では /re:/ と /ræ:/ は中和する。PMH, B/W, T/T, B-C でも中和形しか示されておらず、また上述の SDU Nummerhenvvisninger nr. 42 でも中和すると記述されている。これらのことから、本稿では上述のように、/re:/ と /ræ:/ は中和すると解釈する。

### 2.3. /a:/

/a:/ は、非R環境では [â:]、/r/ の後では [ɑ:] になる。/r/ に後続されるときは、/r/ を含む /a:r/ 全体で1個の [ɑ:] になる。つまり、2個の音素が音声的に融合して1個の長母音状音になる。これに対し、/ra:/ は [rɑ:] で、/r/ と /a:/ は融合せずに、/r/ は独立の [r] として現れ、[ɑ:] は音素 /a:/ だけの実現形である。この点が “/a:/ + 音節末 /r/” の融合形の [ɑ:] とは異なる (§2.5 の /â:r/ 参照)。

|            |               |              |              |
|------------|---------------|--------------|--------------|
| X/a:/ [â:] | tab [tâ'b]    | bag [bâ'(j)] | base [bâ:sə] |
| R/a:/ [ɑ:] | drab [drɑ'b]  | brag [brɑ'w] | rase [rɑ:sə] |
| /a:r/ [ɑ:] | start [sdɑ'd] | bar [bɑ']    | bare [bɑ:α]  |

この結果、たとえば have-har, tage-tager などの不定詞形と現在形の発音上の相違は母音の音質のみによることになる。

不定詞形: /ha'/: [hâ']      /ta'/: [tâ']

現在形: /ha'r/: [hɑ']      /ta'r/: [tɑ']

bark [bɑ:g], harpe [hɑ:bə] などの [ɑ:] については、§3.6 で述べる。

### 補記2

karl [ká:l] 〈男子, 下男〉の 〈ar〉 は [ɑ:] ではなく、例外的に [â:] になる。つまり 〈r〉 は音素としては存在しない。したがって、同語の音韻構造は /ka'l/ になる。一方、男子名の Karl は [kɑ'l] /ka'rl/ であるので、例外ではない。

### 2.4. 前舌円唇長母音: /y:/, /ø:/, /ö:/

#### 2.4.1. 実現形の分布

/y:/ は /r/ の影響を受けず、実現形は [y:] の1個のみである。

X\_\_X環境で [ö:] をもつ語は、少数の擬音語の間投詞 böh [bö:], møh [mö:], øh [ö:] (øh は [ø:, ə:] の発音形もある) および上述の böh を第1要素とする合成形 böhland ['bö:lan'], böhmand ['bö:man'] のみである。そして、鼻子音環境で [ö:] をもつ語は hône のみである。

SDU: 90 によれば、[ö:] は hône, øh, böh (および /r/ の後) にしか現れない。一方、SDU: 108 によれば、[ø:] は同一形態素中の [n] の前には現れないが、Møn [mø:n] や稀な語の døn [dø:n] に見られ、またいくつかの外来語に散発的に現れるに過ぎない。SDUに限らず、一般に /ø:/ は鼻子音の前では [ö:] になると解釈され

てきた．たとえば B/W: 33 では，新しい外来語 fɒ(h)ne [fɒ:nə] を加えると，[ö:] との潜在的コミュニケーションが hɒne [hɒ:nə] との間に存在するというふうに記述されている．T/T: 138 でも /ɒ:/ ではなく，/ö:/ と解釈しているように思える．しかしながら，稀な語や外来語とはいえ，“[ɒ:] + 鼻子音”の結合は“[ö:] + 鼻子音”の結合より多い．つまり，語数の点では [ɒ:] になる方がずっと多い．

[ɒ:]: X\_\_N で [ɒ:], R\_\_N で [ö:] (R\_\_N は R\_\_X と同じ音環境):

Bøhme, Bøhmen, (bøhmer, bøhmisk), Møn, (mønbo, mønsk), døh, føh,  
Føniks, ob'skøn, drøn, drøne, skrøne, nor'røn.

したがって，[ɒ:] が例外なのではなく，[ö:] の方がむしろ例外であるとみなすべきである．いずれにせよ，鼻子音環境で [ɒ:], [ö:] をもつ語は非常に少なく，それも hɒne 以外は稀な語あるいは外来語あるいは擬音語の間投詞などである．X\_\_X, X\_\_N に現れる [ɒ:], [ö:] は次のように 2 通りに解釈できよう．

(1) /ɒ:/ は X\_\_X/N で [ɒ:], R\_\_X/N で [ö:]. 一方，/ö:/ は X\_\_X/N で [ö:] (R\_\_N には現れない?)．

(2) /ɒ:/ は X\_\_X (/N) では [ɒ:] であるが，R\_\_X (/N) では [ö:]. 但し，hɒne, bøh, (bøhland, bøhmand), møh, øh は例外的に [ö:] になる (øh は [ö:] のほかに [ɒ:, ə:] 形もある)．

本稿では，例外をできるだけ少なくするために，(1) を採るが，(2) とすることも十分できよう．いずれにせよ，\_\_X/N での /ö:/ の機能負荷量は /y:/ と /ɒ:/ にくらべ，非常に少ない．(本稿では，R\_\_X での [ö:] は /ɒ:/ の実現形とする.)

#### 2.4.2. /y:r/, /ɒ:r/, /ö:r/

前舌円唇長母音の対立は，上述のように，X\_\_X/N 環境では 3 個，R\_\_X (/N) では 2 個であるが，X/R\_\_R 環境では /y:/ - /ɒ:/ - /ö:/ の 3 個の音素の対立がある: dyr [dy:'ɹ] - dør [dɒ:'ɹ] - dør [dö:'ɹ/döɹ'].

/ö:r/ の /ö:/ の実現形は [ö:] または [ö:] になる．SDU, PMH と多音節形，たとえば smøre では [smö:ɔ, smö:ɔ] のように [ö:], [ö:] の両形を示しているが，単音節形，たとえば dør <扉> は非短音化形では [dö:'ɹ]，短音化形では [döɹ'] のように，±短音化の相違によって音質を区別している．さらに SDU では，/r/ に先行される /ö:r/, たとえば røre (および同語の屈折形，関連の合成形) は，[rö:ɔ] のように [ö:] のみが用いられているが，PMH では [ö:, ö:] の両形が示されている．PMH の単音節形 rør は上記の dør と同様になる．

SDU Nummerhenvisninger nr. 49 によれば，大多数の yngre では [ö:] を用いる．ASC を記述する Basbøll 1969, B/W および B-C では [ö:] のみが示されている．[ö:, ö:] の両形を認めるのは T/T だけである．したがって，/r/ の前の /ö:/ の実現形は [ö:] が一般的であるとみなすのが妥当であろう．/ɒ:r(ə)/, /ö:r(ə)/ の語は次の通り．

/ø:r/: bør [名], dør [動], før [形], føre, høre, klør, køre, mør, 'ned|bør,  
pløre, skør, slør, sløre, ør, øre, etc.

<-'ør> [-'ø:ɹ] のフランス語からの借用語 (の大多数) (補記3 参照);

/ö:r/: dør [名], før [関 動], gøre, 'op|rør, rør, røre, smøre, snøre, Søren,  
tør [形], etc.

<-'ør> [-'ö:ɹ, -'ö:ɹ] のフランス語からの借用語の一部 (補記3 参照).

### 補記3

上述のように, <-'ør> (稀に <-'eur>) に終わるフランス語からの借用語がある (フランス語の <-eur> に相当する). これらの語は抽象名詞 (dusør, favør, vigør など) または「行為者あるいは器械・器具」などを表す名詞 (chauffør, debattør, projektør) などであるが, その大多数は「行為者」を示す名詞である.

発音に関しては, これらの <-'ør> は大多数の場合には [-'ø:ɹ] になるが, ごく一部は以下に示すように /-'ö:r/ [-'ö:ɹ/-'ö:ɹ] になる. これは2つの点で音韻的に例外的な特徴をもつ: [ö:, ö:] は原則として短音化されない; [ö:, ö:] は長母音にもかかわらず stød をとらない.

/-'ø:r/ [-'ø:ɹ, -'ø:ɹ]:

ambassa'dør, chauff'før, debat'tør, du'sør, eksportør, fri'sør, hon'nør,  
hu'mør, importør, ku'llør, projek'tør, etc.

/-'ö:r/ [-'ö:ɹ, -'ö:ɹ]:

char'mør/char'meur, eksteri'ør, fa'vør, interi'ør, par'lør, vi'gør, etc.  
なお, po'sør, va'lør などは /-'ö:r/ のほか, /-'ø:r/ になることもある.

### 2.5. 後舌円唇長母音: /u:/, /o:/, /å:/

後舌長母音は, /å:r/ を除き, 周囲の音の影響は受けない.

/å:r/ は, /å:/ と /r/ が融合して1個の音として実現される (§2.3 の /a:r/ 参照).

|             |          |            |              |
|-------------|----------|------------|--------------|
| X/å:/ [å:]: | å [å:]   | få [få:]   | både [bå:ðə] |
| R/å:/ [å:]: | rå [rå:] | grå [grå:] | råde [rå:ðə] |
| /å:r/ [å:]: | år [å:]  | får [få:]  | båre [bå:ð]  |

この結果, たとえば次のような不定詞形と現在形の発音上の相違は [å:] 対 [å:] の音質のみの相違となる.

不定詞形: /få:/ [få:]      /gå:/ [gå:]

現在形: /få:r/ [få:]      /gå:r/ [gå:]

(比較: have [hå:] 対 har [hå:] (⇒2.3)).

bort [bå:d] [動], snorker [snå:ge] などの [å:] については, §3.6 で述べる.

### 3. 短母音音素とその実現形

表 4 短母音音素と実現形

(A = 話者 A (同時に, 解釈 A), B = 話者 B (同時に, 解釈 B)); I = 短音化母音を加えない場合, II = 短音化母音を加えた場合; + = 複合形, # = 屈折形)

| A    | B    |       | X__X     |        | R__X  |         | __R               |                      |
|------|------|-------|----------|--------|-------|---------|-------------------|----------------------|
| /i/  | /i/  | [i]   | blist    | spilde | trist | trille  | ir                | lirke                |
| /e/  | /e/  | [e]   | list     | spille |       |         | Per               | flertal <sup>+</sup> |
| /æ/  | /æ/  | [æ]   | hest     | Pelle  | rist  | briller |                   |                      |
|      |      | [æ/å] | blæst    | bælle  | tres  |         |                   |                      |
|      |      |       |          |        |       |         | lært <sup>#</sup> | lærdom <sup>+</sup>  |
|      | /ä/  | [ä]   |          |        |       |         | er                | kerne                |
|      |      | [ä]   |          |        | rest  | grelle  | bær               | lærke                |
|      |      |       |          |        | præst | trælle  |                   |                      |
| /a/  | /a/  | [a]   | last     | balde  |       |         |                   |                      |
| /ar/ | /ar/ | [ɑ]   | lak      | bakke  | rast  | tralle  |                   |                      |
|      |      | [ɑ]   |          |        |       |         | par               |                      |
| /y/  | /y/  | [y]   | tyst     | skylde | brysk | trylle  | tyrk              | myrde                |
| /ø/  | /ø/  | [ø]   | kyst     | skylle |       |         | børs              | mørne <sup>+</sup>   |
| /ö/  | /ö/  |       | øst      | kølle  |       |         | kørt <sup>#</sup> | hørilig <sup>+</sup> |
|      |      |       | mæ'nøvre |        |       |         |                   |                      |
|      |      | [ö]   | søvn     | støvle | bryst | bryllup |                   |                      |
|      |      |       |          |        | brøst | krølle  |                   |                      |
|      |      | [ö/ö] |          |        |       |         |                   | tørvejr <sup>+</sup> |
|      |      | [ö]   |          |        | røv   | vrovle  |                   |                      |
|      |      |       |          |        | grøn  |         |                   |                      |
|      | /ö/  |       |          |        |       |         | skørt [ø]         | mørke                |

| I    | II   |       | X__X                 |        | R__X                 |                    | __R                 |                      |
|------|------|-------|----------------------|--------|----------------------|--------------------|---------------------|----------------------|
| /u/  | /u/  | [u]   | kup                  | kuple  | trup                 | gruppe             | spurt               | spurte               |
| /o/  | /o/  | [o]   | tri <sup>1</sup> kot |        | bu <sup>1</sup> reau |                    | spurgt <sup>#</sup> | spurgte <sup>#</sup> |
|      |      |       | bofast <sup>+</sup>  |        | trofast <sup>+</sup> |                    | port                | porter               |
|      |      |       | blodløs <sup>+</sup> |        | rodløs <sup>+</sup>  |                    | torn                | sporløs <sup>+</sup> |
|      | /å/  | [å]   | skub                 | skubbe | skrub                | rubbe              |                     |                      |
|      |      |       | dådløs <sup>+</sup>  |        | trådløs <sup>+</sup> |                    |                     |                      |
| /år/ | /år/ | [å]   |                      |        |                      |                    | vor                 |                      |
| /å/  | /o/  | [o]   | kop                  | koble  | trop                 | kroppe             |                     |                      |
|      |      |       | så [u]               | mätte  | råt <sup>#</sup>     | råbte <sup>#</sup> |                     |                      |
|      |      | [o/å] | lov                  | sove   | rov                  | grove <sup>#</sup> |                     |                      |

### 3.1. 序

本章で扱う短母音は、§1.3 で述べたように、PMH および SDU で短母音(状音)で表記されているもので、本来あるいは伝統的に短母音として扱われてきたもののほかに、形態音韻的短音化による短音化母音も目録に含める(⇒前頁の表4)。但し、短音化母音は本来の短母音と音質が異なる場合のみ取り上げる。該当する母音は [eɪ], [æɪ], [øɪ], [öɪ] の母音、および [o], [å] である。前舌母音 [e, æ], [ø, ö] に関しては、話者の相違によって生ずるものである。一方、後舌母音 [o], [å] に関しては、話者による相違ではなく、音韻解釈の相違によるものである。

音長変化については多くの論文(たとえば Basbøll 1970, 1971, 1972, 1973a, 1973b; Rischel 1969, 1970)で取り上げられている。しかしこれらの論文では、短音化した短母音をどのように扱うのか、つまり長母音音素の実現形として扱うのかあるいは短母音音素の実現形として扱うのかは明確ではない。T/T: 139 では、/r/ の前の [e, ø, o] は /e, ø, o/ として認めているようであるが、これらはすべて短音化母音であると述べている。[o] と [å] は一般に /o/ の条件変異音とされるが、B/W: 36ff.では、形態音韻的短音化の [oɪ] (しかし [oɪ] のみ)を考慮して、[o] を [å] から切り離して、独立の「周辺の音素」/o/ とする可能性を示唆しているが、真のコミュテーションを示す語対はほとんどなかろうと言っている。なお、音長変化(および子音の音質変化)に関して、Becker-Christensen では正音学の見地から詳細な記述が行われている。このデータは大いに利用した。

鼻子音環境(=音節末鼻子音の前)の狭口母音 [i, y, u] は現実にはごく少数の語に現れるにすぎないが、本稿では例外を少なくするために、後続鼻子音の影響は考慮せずに、[i, y, u] は各々 /i, y, u/ の実現形と解釈する。

### 3.2. 前舌非円唇短母音: /i, e, æ/

#### 3.2.1. 前舌非円唇短母音の分布(⇒表4)

X\_\_Xでは、長母音に並行して /i, e, æ/ の3個の音素の対立があり、その実現形は各々 [i], [e], [æ] になる。R\_\_Xでも /i, e, æ/ の対立は保たれるが、この場合 /e/, /æ/ の実現形が各々一段広口の [æ], [ä] になる。つまり、この環境では [æ] は /æ/ の実現形ではなく、/e/ の実現形となる。対応の長母音と比較してみると、長い /re:/ と /ræ:/ は中和するが(⇒2.2)、短い /re/ と /ræ/ は中和しない。

#### 3.2.2. 鼻子音環境の母音

鼻子音環境では、linje [linjə]—hinde [henə], hende [henə]—henne [hænə], hände [hænə], あるいは trin [trin]—brint [bræn'd]—prent [præn'd], skrænt [sgræn'd] のように、X/R\_\_Xの場合と同様に、X\_\_Nで [i]—[e]—[æ], R\_\_N

で [i]–[æ]–[ä] が各々 /i/, /e/, /æ/ として対立する．しかしながら，鼻子音環境の [i] (/i/) は現実には次の6語に見られるのみである．

[i]: linje/linie [linjə], pinje [pinjə], trin [trin];

[æ]/[i]: trimle [træmlə, trimlə], trind [træn', trin'];

[i:]/[i]: pinsel [pi'nsəl, pin'səl].

このうち，trimle, trind では [æ]-形 (/e/) が，pinsel では長母音形が標準形である．

このほかの場合には鼻子音の前では，〈i〉は X[e]/R[æ] (/e/) になる．これに平行して，〈e〉は〈æ〉とともに鼻子音の前では X[æ]/R[ä] (/æ/) になるが，次の語の〈e〉は [e] になる：hende [henə], end [en, æn], fjende [fjenə, fjænə], sennep [senəb, sænəb]. end, fjende, sennep の [æ]-形は /æ/ の実現形である．したがって，これらの語は /e/-形と /æ/-形の2個をもつことになる．

### 3.2.3. /r/ に後続される場合の実現形

/r/ に後続される前舌非円唇短母音は次のようになる．

|          | 本来の短母音  | 短音化母音                                                                                   |
|----------|---------|-----------------------------------------------------------------------------------------|
| [iɹ]:    | ir      | <sup>1</sup> fir <sub>1</sub> kant <sup>+</sup>                                         |
| [eɹ]:    | Per     | <sup>1</sup> fler <sub>1</sub> tal <sup>+</sup>                                         |
| [æɹ/äɹ]: |         | <sup>1</sup> lær <sub>1</sub> dom <sup>+</sup> lært(e) <sup>#</sup> nærhed <sup>+</sup> |
| [äɹ]     | er, bær | <sup>1</sup> lærling <sup>+</sup> nærme <sup>+</sup> nærmere <sup>#</sup>               |

[iɹ] は多数の語に現れる．[eɹ] は次の語に現れる．Per (男子名)，形容詞 bor-<sup>1</sup>nert, for<sup>1</sup>kert, ge<sup>1</sup>neret, kre<sup>1</sup>perlig, ure<sup>1</sup>gerlig, u<sup>1</sup>terlig (SDU では uterlig は長音形 [u<sup>1</sup>te<sup>1</sup>ɹli] も明瞭形として認める)；短音化母音：<sup>1</sup>fjer<sub>1</sub>kræ, <sup>1</sup>fjer<sup>1</sup>let, <sup>1</sup>fler<sub>1</sub>tal, <sup>1</sup>fler<sub>1</sub>tydig, <sup>1</sup>ler<sub>1</sub>fad, <sup>1</sup>mer<sub>1</sub>import, etc.

[æɹ/äɹ] は，§2.2 で述べた /-æ:r(ə)/ の長母音の形態音韻的短音化の結果としての短音化母音である．この場合の [æ], [ä] は長母音の場合と同様に (⇒2.2)，その音質の相違は個人間の相違で，同一話者はどちらか一方を用いる．便宜上，[ä] を用いる話者を「話者A」，[æ] の話者を「話者B」とする (表4参照)．話者Bでは (長母音をもつ lære, nær から派生の) lær-, nær- は [<sup>1</sup>læɹ-], [<sup>1</sup>næɹ-] になる．この [æɹ] の [æ] は本来の短母音としては (下記の dessert を除き) [ɹ] の前には現れない．それゆえ，話者Bの言語では [iɹ], [eɹ], [æɹ], [äɹ] は少なくとも音声的には区別されるが，たとえば lærdom [<sup>1</sup>læɹ<sub>1</sub>dom<sup>+</sup>] と lærling [<sup>1</sup>läɹ<sub>1</sub>leŋ], nærhed [<sup>1</sup>næɹ<sub>1</sub>he<sup>+</sup>ð] と nærme [närmə], nærmere [närmoo] の間に真のコミュテーションが存在すると言えるかどうか，つまり真の音韻的対立があると言えるかどうか疑問の余地がある．同じ lære, nær からの派生の lærling, nærme, nærmere などは [äɹ] の

発音形しかもたないのである。それゆえ、[æ] の [æ] をその他の3個の音声形と音韻的に対立する独立の短母音として認めるとしても、周辺的な音素というべきであろう。短音化 [ä] をもつ話者Aでは本来の短母音の実現形 [ä] と同じであるので、短音化母音は独立の音素（の実現形）とはならない。

このように解釈すると、話者Bは /r/ の前でのみ4個の音素を区別することになる。ただ、話者AでもBでも [æ] になる語が1個ある。それは dessert で、SDU では [de'sæ:d], PMH では [dæ'sæ:ɹ, dæ'sæ:d], B-C: 111 では母音は [ä, e, æ] であるとする。このように、dessert は発音が一定しないが、もしこの1語を例外でないとするとすれば、話者A, Bとも /ær/ と /är/ を認めることになるが、話者Aのためにその必要があるかどうかは甚だ疑問で、話者Aでは例外とするのが妥当であろう。

短音化母音 [æ/ä] と短母音 [ä] の例を加える。

[æ/ä]: 複合形: 'vej<sub>r</sub>melding (cf. vej<sub>r</sub>), 'kær<sub>r</sub>kommen (cf. kær),  
 'nær<sub>r</sub>synet, 'svær<sub>r</sub>vægt, 'svær<sub>r</sub>hed (cf. svær), 'sværd<sub>r</sub>fisk,  
 'sværd<sub>r</sub>klinge (cf. sværd), 'sær<sub>r</sub>kende, 'sær<sub>r</sub>hed (cf. sær),  
 'tvær<sub>r</sub>faglig, 'tvær<sub>r</sub>mål, etc.;

[ä]: bjerg, fersk, jern, bær, skærm, stærk, etc.

複合形: kærlig (cf. kær, kærkommen), særlig (cf. sær, særkende),  
 tværs (cf. tværmål), etc.; 屈折形: nærmest (cf. nær, nærhed).

### 3.3. /a/ の実現形

音節頭 /r/ の後の /a/ は、長い /a:/ の実現形と同じように、/r/ の影響を受けて [α] になる。X\_\_Xでは、長い /a:/ の実現形は [ä:] の1個のみであるが、短い /a/ の方は [a] と [α] の2個がある。[a] は (/r/ に先行されずに) 開音節に現れるとき (= 音節末に子音がないとき) あるいは (/r/ に先行されずに) 音節末歯(茎)子音に後続されるときに現れる。その他の場合 (つまり、/r/ に先行されずに音節末子音が唇音、硬口蓋音または軟口蓋音のとき) には [α] になる。(鼻子音は /a/ には一切関係しない。)

/r/ の前の /a/ (kar [kα], par [pα], var [vα] (være の過去形)) は /ar/ 全体で [α] になると解釈するが、これについては、§ 3.6 で改めて述べる。

|      |      |     |      |      |      |
|------|------|-----|------|------|------|
| /a/  | [a]: | da  | last | land |      |
|      | [α]: | lap | lam  | rast | rand |
|      |      | lak | lang | ram  | rang |
| /ar/ | [α]: | kar | par  | var  |      |

(開音節に現れる [a] の例として、B/W: 30 では da [da] のほかに, hvad [va], kan [ka], la [la] を挙げているが, hvad, kan はこれが唯一の発音形ではない。)

次の語の〈a〉は歯子音の前に現れるが、[a]ではなく[α]をもつ。

aldrig [aldri], anderledes [ano'le'ðəs], Anders(en) [anos(ən)],  
andre [andro] (および関連語の hverandre [væɹ'andro, vɑɹ-]), forandre  
[få'an'dro], vandre [vandro] (および vandrer [ʁ] [vandro], udvandre  
['uðɹvæn'dro] などの関連語) および間投詞としての hva' [vɑ].

たとえば al(t) [al'(d)], alder [alo] 対 aldrig [aldri] や anden [anən],  
andet [anəð] 対 andre [andro] のようなペアが音韻的に対立すると解釈する場合には、[α]は /α/, [a]は /a/ とする必要が生ずる。しかし、B-C: 301ff. のデータ  
の中で、[l], [n] に後続される語は、少なく見積って各々80語はある。このうち、  
歯子音の前で [α] になる語はわずかであるということになるので、これらは例外と  
みなすのが適当であろう。このほか、開音節に現れるのか非歯音環境に現れるのか  
不明瞭な語で [α] をもつ語が少数ある。なお、-andre の語形は klandre [klandro]  
以外はおそらく [α] になるとと思われる。

#### 補記4

上述のように、本稿では、X\_\_X環境の /a/ の実現形として [a], [α] の2個のみ  
を認める。これは PMH, T/T, B-C と同じである。SDU では本稿の二重母音 [αj] (⇒  
3.7.2) は、/r/ に先行されない場合には [ǣj] (Dania [ǣi]) になる: leje [lǣjə]  
対 reje [rǣjə]。SDU Nummerhenvvisninger nr. 30 によれば、大多数の地域の yngre  
で [αj] が一般的である。それゆえ、本稿では [ǣ] は用いない。なお、B/W でも SDU  
と同様に、leje と reje の a-音は異なるが、これはその他の解釈上の相違も伴うの  
で、単純に比較できない。

### 3.4. 前舌円唇短母音: /y, ø, ö/

#### 3.4.1. X\_\_X環境

鼻子音環境では /y, ø, ö/ の3個の音素の対立があるが (⇒3.4.2), X\_\_X環境  
では、/-v/ ([w]) の前以外では /y/ [y] と /ø/ [ø] の対立しかない。/-v/ の前  
で [ø] になるのは, øvrig [øwri], øvre [øwro], manøvre [ma'nøwro] しかなく、  
その他は [ö] になる。したがって、これら3語を例外と認めれば、X\_\_X環境では  
/y/ と /ø/ の対立しかないことになる。しかしながら、このほかに形態音韻的短音  
化による [øw] を加えることができる: døvbleven ['døw,ble'ven, -ible'wən], løv-  
fald ['løw,fal'], sløvsind ['sløw,sen'], støvsuger ['sdøw,su'ø], etc. また、  
次節で述べる鼻子音の前でも [y], [ø], [ö] が対立することを考慮して、本稿では  
øvrig などの [ø] は /ø/ の実現形, støvle [sdöwlə], søvn [söw'n] などの [ö]  
は /ö/ の実現形とする。/ö/ は /r/ の後では [ö] になる: vrövl [vröw'l]。なお、

B-C: 262 のデータによると, X[ö]/R[ö] の語形は12個ほどある.

### 3.4.2. 鼻子音環境

hymne [hymnə]—hynde [hønə], skynde [sgønə]—skønne [sgönə], あるいは brynje [brynjə]—brynde [brönə]—rønne [rönə] のように, X\_\_N で [y]—[ø]—[ö], R\_\_N で [y]—[ö]—[ë] が各々 /y/, /ø/, /ö/ として対立する.

しかしながら, 鼻子音環境には [y] はほとんど現れず, 次の語に見られるのみである: hymne, brynje および synes [syns] 〈感じる, 思う〉(SDU では, 〈…のようだ〉の意味の synes は長母音の [sy:nəs] になる; PMH では, 意味の区別なしに [synəs, syn's]). このほかに, 外来語(ギリシア語起源の語)の語頭弱強勢音節中の〈sym-〉, 〈syn-〉が各々 [sym-], [syn-] になる. たとえば次のような語がある.

sym'bol, symfo'ni, symme'tri, sympa'ti, sym'posium, symp'tom, syn'drom, syn'kope, syn'kron, syn'taks, syn'tese, etc.

上例からわかるように, これらの語の多くは日常的な語彙ではない. このほかに gymnasium [gym'ná'fám], gymnastik [gymna'sdig] などの語頭弱音節に [y] (/y/) が現れるが, olympiade [olømpi'á:ðə], olympisk [ol'ømpisg] では一般的に予想される [ø] が現れている. syndi'kat は SDU では [ø] (/ø/), MH では [y] (/y/) とされる.

上記の場合を除き, 鼻子音環境の〈y〉は X[ø]/R[ö], 〈ø〉は X[ö]/R[ö] になる. 〈ø〉が例外的に X[ø]/R[ö] (/ø/) になる場合がある. 但し, SDU によれば, mønt, mønte 以外は, X[ö]/R[ö] 形 (/ö/) もとくに yngre では用いられ可能性がある.

mønt, mønte; mønje, mønster, pønse, sønden, sønder, sønder-, søndre, tønde, tønner, Tønder, ønske;

krønike は [ö]/[ë], drønnert は SDU では [ö]/[ë], PMH では [ë] のみ.

このほかの〈ø〉は X[ö]/R[ö] になる. これは /ö/ の実現形である. したがって, たとえば上記の krønike, drønnert の当該母音は /ø/ および /ö/ の両音素の実現形である.

grøn, drøm などの /ö/ の R\_\_N での実現形は PMH および SDU の標準表記に従って [ö] と表記するが, 現実にはこれは, より広口の [ɔ] になる (SDU Nummerhenvisninger nr. 45 参照). T/T, B/W, B-C でも [ɔ] で表記されている. また, デ語発音教本 Søgaard: 92 でも [ö/ɔ] で示されている.

### 3.4.3. /r/ の前

音節末の /r/ の前では次のような音声形が現れる.

[yɹ]: fyr 〈松〉, dyrke, myrde, etc.

[øɪ]: børs;

短音化母音 (⇒2.4.2): 'ind,førsel (cf. føre), 'hør,bar, hørlig  
(cf. høre), kørsel (cf. køre), mørne (cf. mør), skørne (cf. skør),  
etc.; ført(e), hørt(e), kørt(e).

[öɪ/öɪ]: 短音化母音 (⇒2.4.2): 'dør,alg, 'før,nævnt, 'rør,lægger,  
'rør,fløjte, rørlig, 'tør,vejr, etc.

[öɪ]: først, børn, smør, mørke, tørke, etc.

短音化母音 [öɪ/öɪ] は, § 2.4.2 で述べた /ö:r/ の短音化形で, [ö] と [ö] の相違は, 長母音の場合と同様に (⇒2.4.2), 個人間の相違である. § 3.2.3 の [æɪ/æɪ] の場合と同様に, ここでも [öɪ] をもつ話者Bでは, [ö] を独立の音素として認める必要があろうが, たとえば tørke と 'tør,vejr の間に真の音韻的対立があるかどうか疑問である (因みに, 形容詞 tør [tö'ɪ, töɪ'] の -e 変化形は tørre [töɪɔ] であり, これは原形の長母音音素が変化形で短母音音素に変わり, その結果, 実現形は [ö] になる).

話者 A

話者 B

/yr/ [yɪ]: byrde myrde tyrker  
/ør/ [øɪ]: børs mørne kørsel  
/ör/ [öɪ]: børn mørke tørvejr

/yr/ [yɪ]: byrde tyrker  
/ør/ [øɪ]: børs kørsel  
/ör/ [öɪ]: dørsalg tørvejr  
/ör/ [öɪ]: børn tørke

### 3.5. 後舌短母音 : /u, o, å/

#### 3.5.1. 後舌短母音の分布

表 5 (I = 解釈 I ; II = 解釈 II ; + = 複合形 ; # = 屈折形)

| I    | II   |       | X__X                                                           | R__X                                                                         | __R                                                                                             |
|------|------|-------|----------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------|
| /u/  | /u/  | [u]   | kup kuple                                                      | trup gruppe                                                                  | spurt spurte                                                                                    |
| /o/  | /o/  | [o]   | tri'kot<br>foto<br>bofast <sup>+</sup><br>blodløs <sup>+</sup> | bu'reau<br><br>trofast <sup>+</sup><br>rodløs <sup>+</sup>                   | spurgt <sup>#</sup> spurgte <sup>#</sup><br>port porter<br>torn portner<br>sporløs <sup>+</sup> |
|      | /å/  |       | skub skubbe<br>dådløs <sup>+</sup>                             | skrub rubbe<br>trådløs <sup>+</sup>                                          |                                                                                                 |
| /år/ | /år/ | [å]   |                                                                |                                                                              | vor                                                                                             |
| /å/  | /o/  | [o]   | kop koble<br>så måtte<br>lov sove                              | trop kroppe<br>råt <sup>#</sup> råbte <sup>#</sup><br>rov grove <sup>#</sup> |                                                                                                 |
|      |      | [o/å] |                                                                |                                                                              |                                                                                                 |

### 3.5.2. [o] と [å] の音韻解釈 — 解釈 I

後舌短母音の音韻解釈は [o] と [å] の解釈次第である。伝統的には、[o] と [å] は 1 個の音素の実現形とされている（これを「解釈 I」とする）。すなわち、[o] は主として開音節に、[å] は閉音節に現れるとされる。この解釈の場合、開音節の [o] は jo [jo] を除き、実質的には外来語に現れる。

bureau [by'ro], foto ['foto], hallo [ha'lo], jogurt/yoghurt ['jo<sub>1</sub>gu<sub>1</sub>'d],  
niveau [ni'vo], plateau [pla'to], trikot [tri'ko], etc.; 弱音節中: fone-  
tik [fonə'tig], kolosal [kolo'sá:l], modificere [modifi'se'o], etc.

開音節中でなくても、/r/ の前に [o] が現れることは Thorsen & Thorsen, Basbøll & Wagner でも認めている。[å] はこのほかの場合、つまり閉音節に現れるが、[å] をもつ語形は本来語にも外来語にも多数あるので、この解釈 I では [å] が /o/ の主要実現形となろう。そして、/å/ の実現形は [o] となり、/o/ と /å/ の主要実現形は各々音素記号より一段広口の [å], [o] になる。（[w] の前の [o] と [å] は個人間の相違であるが、これについては、§ 3.5.3 で述べる。）この結果、長母音音素の実現形との間にずれができることになる（⇒表 3 および表 5）。

[o] が開音節および /r/ の前、[å] がその他の閉音節に現れるかぎり、両音は相補分布をなし、1 個の音素の 2 個の実現形となろう。

現実には、[o] は /r/ の前以外の閉音節にも現れる。T/T: 139 は、[o] は開音節（たとえば foto ['foto]）のほか、「短音化した長母音」として現れると言い、blodpølse ['bloð<sub>1</sub>pølsə] を例示している。この「短音化した長母音」は短母音音素中に登録されているので、短母音の実現形ということになろう。B/W: 34 は、[o] は「とくに開音節に現れる」とは言うが、同書: 36ff. では、[o] を [å] とは切り離して、独立の「周音素」とする可能性を示唆している。すなわち、stor [sdo'ɹ] が stormand ['sdo<sub>1</sub>man'] のような合成形の第 1 要素になるときに短音化される場合や mor, bror, sort ㊦, hurtig [mo<sub>1</sub>, bro<sub>1</sub>, so<sub>1</sub>d, ho<sub>1</sub>di] などの例は、[o] が開音節に現れるとすることの反論になると言うが、[o] と [å] の確実な音韻対立ペアはほとんどないだろうと述べている。この場合の「短音化」も、bror, mor の文体的短音化形を除き、短母音の実現形とみなしてよいであろう。

本稿では、[o], [å] は、次節以下に述べる理由によって、各々別の音素の実現形と解釈することにする、すなわち /o/→[o], /å/→[å], /o/→[o]。これを「解釈 II」とする。

### 3.5.3. 閉音節に現れる [o] と短音化母音 [å] — 解釈 II

まず第一に、PMH および SDU で [o<sub>1</sub>] で表記されている語例を [u<sub>1</sub>] (/ur/) と対比させて見てみる。

/ur/ [uɹ]: ab'surd, a'gurk, gurgle, kurre, kurs, kursus, kurv, murre,  
purk, slurk, spurt, urt, etc.

/or/ [oɹ]: hurtig, smurt#, smurte#, spurgt#, spurgte#;  
bort [𐀀], gjort#, kor'porlig, lort, port, sort [𐀀],  
fjorten, porter, portner, skjorte, torden;  
orm; 'a<sub>1</sub>horn, horn, korn, torn.

SDU では <-ort> の語のうち, bort, lort, port には明瞭形として [-o:'ɹd] の長母音を認めている (この場合には, 上記 3 語は長・短両母音をもつことになる)。しかし, sort, gjort は短母音状音形のみ, その他の <-orm>, <-orn> の語は各々 [-oɹ'm], [-oɹ'n] のみとする。PMH では <-ort, -orn, -orm> の <-or> はすべて [oɹ] とする。後者の方が現実的に即していよう。このようなわけで, 上例語の [oɹ] の [o] はすべて短母音の実現形とみなすことができる。(<or> が [oɹ] になるのは上記の語 (およびその合成形, 派生形など) においてのみで, その他は /ā:r/ [ā:] または /ār/ [ā] になる (⇒3.6))。

この [oɹ] は, 確かに閉音節に現れているが, [o] は開音節および音節末 /r/ の前に現れ, その他の場合には [ā] になるとすれば, 依然として [o] と [ā] は相補分布を成すので, 1 個の音素 /o/ の 2 個の実現形とみなすことは可能である。

次に, 閉音節に現れる短音化母音の [o] を見てみる。

fodgænger ['foð<sub>1</sub>gæŋɔ] (cf. fod [fo'ð]), rodløs ['roð<sub>1</sub>lø's] (cf. rod [ro'ð]), modne [moðnə] (cf. moden [𐀀] [mo'ðən]), etc.;  
stormagt ['sdoɹ<sub>1</sub>mægd] (cf. stor [sdo'ɹ]), morsom ['moɹ<sub>1</sub>som'] (cf. more [mo:ɔ]), bordsalt ['boɹ<sub>1</sub>sal'd] (cf. bord [bo'ɹ]), ordbog ['oɹ<sub>1</sub>bå'w] (cf. ord [o'ɹ]), etc.

短音化母音の [ā] には, 次のようなものがある。

båd(s)anker ['bā(:)ð(s)<sub>1</sub>æŋɔ] (cf. båd [bā'ð]), dådløs ['dā(:)ð<sub>1</sub>lø's] (cf. dåd [dā'ð]), vådfast ['vā(:)ð<sub>1</sub>fasd] (cf. våd [vā'ð]), trådløs ['trā(:)ð<sub>1</sub>lø's] (cf. tråd [trā'ð]), etc.

上記の <-åd> は, PMH では短音化形のみを示すが, SDU では長音形も認めている。本稿では短音形のみを対象とする。

boghandler ['bāw<sub>1</sub>hanlɔ], boglig [bāwli] (cf. bog [bā'w]), sprogkursus ['sbrāw<sub>1</sub>kuɹsus], sproglig [sbrāwli] (cf. sprog [sbrā'w]), togplan ['tāw<sub>1</sub>plā'n] (cf. tog [𐀀] [tā'w]), klogskab ['klāw<sub>1</sub>sgā'b] (cf. klog [klā'w]), kogsalt ['kāw<sub>1</sub>sal'd] (cf. koge [kā:wə]), lågfad ['lāw<sub>1</sub>fað] (cf. låg [lā'w]), vågne [vāwnə] (cf. våge [𐀀] [vā:wə]);  
svogre [svāwɔ] (svoger [svā'wo, svāw'ɔ] (SDU), [svāw'ɔ] (PMH) の複数形)。

上例中、短音化した [o] は [ð], [ɹ] が後続した場合にのみ現れ、短音化した [å] は [ð] または [w] が後続した場合に現れる。このほかの子音が後続するときは長母音の短音化は起こらないか、あるいは [å:] の場合は [o] に変わる。この [o] は短母音音素の実現形である、なぜなら [o:] は存在しないからである。

「本来の」短母音音素の実現形としての [åw] はごくわずかしかな存在しない (fjog [fjåw], fog [fåw]; SDU ではこの [åw] 以外の発音形も示されている)。

[ð] の前では短音化母音の [o] と [å] の間にごく少数ながら、(サブ)ミニマルペアが存在する: blodløs-dådløs, rodløs-trådløs. この場合には明らかに音韻的対立があることになる。

T/T: 139 では、閉音節に現れる [o] として、rosværdig [ros'væɹ'di] の弱強勢音節に現れる場合も示しているが、弱強勢閉音節の [o] を加えれば、[ð], [w], [ɹ] 以外の子音の前にも [o], [å] (および [o]) が現れる。SDU では、たとえば kompromis の第 1～3 形は [kåmpɹo'mi], 第 4 形の kom- は [kom-], yngre では [kom-] もあるとする。kontakt の第 1～3 形は [kån'tægd] であるが、第 4 形の kon- は [kon-], yngre では [kon-] もあるとする。また、SDU では、oktan [og'tå'n] の ok- は [og-] もあり、oktav [og'tå:v, og'tåw'] の ok- は、とくに yngre で [og-] になると記述されている。これらの弱強勢音節に現れる [o], [å], [o] は音韻的対立を成すミニマルペアを構成することはなからうが、いずれも同一音環境に現れているので、3 個の音素の実現形とみなすのが妥当であろう。

これらの音韻的・音声的事実から、本稿では、[o] は /o/ の、[å] は /å/ の実現形と解釈し、[o] は別の音素 /o/ の実現形と解釈することにする (表 5 の解釈 II 参照)。

/o/ は 2 個の実現形 [o] と [å] をもつが、これらは相補分布を成す。[å] は後続の [w] とともに二重母音を形成する場合に、[o] はその他の場合に用いられる。しかし、PMH ではいずれの音環境でも [o] のみである。SDU Nummerhenvvisninger nr. 36 によれば、二重母音第 1 要素としての [å] は yngre ではふつう、unge では常に用いられる音である。いずれにせよ、この 2 音の相違は個人間のそれで、同一話者はどちらかの音声形しかもたない。B-C でも両音が示されている。B/W では [å] のみが示されている。T/T では [å] については述べられていない。/o/ の実現形分布は次のようになる: top [tob], trop [trob] に対し, tov [tow]/[tåw], rov [row]/[råw]。

#### 3.5.4. 鼻子音環境の実現形

鼻子音環境の <u>=[u] (/u/) は次の 5 語に見られるのみである。

hun, hund, hundred(e), kunne, pund.

このほかの場合には <u> は [å] になる。R\_\_N には [u] は現れず、この環境の <u> は [å] (rum [råm']), <o> は [o] (rom [rom']) になる。

〈o〉は〈å〉とともに鼻子音環境ではふつう [ɔ] になるが、次の語では [å] になる。

bom, bombe, bonne, bommert, bonde, 'brom<sub>1</sub>bær, 'don<sub>1</sub>kraft, mon,  
mons'tro, -omme (例: karde'momme), ond, onkel, onsdag, plombe,  
pomp, tromle, tromme, trom'pet, vaga'bond.

鼻子音環境の音素は解釈 II をとる場合、次のようになる。

/u/ [u]: kunne

/o/ [o]: (kom-, kon- などの弱強勢音節中での実現形のみ)

/å/ [å]: kunde

/ɔ/ [ɔ]: komme

解釈 I でも II でも多少問題があろうが、弱音節もカバーできる点で II を採る。

### 3.6. /a(:)r/, /å(:)r/

/r/ に後続される /a:/, /a/ および /å:/, /å/ の分布は次のようになる。

- |                |             |                  |                       |
|----------------|-------------|------------------|-----------------------|
| (1) [α'] bar   | var [彫]     | (1) [å'] tår     | år                    |
| (2) [α'] part  | fart        | (2) [å'] torsdag |                       |
| (3) [α'] barn  | arg         | (3) [å'] tårn    | hjord                 |
| (4) [α:] bark  | kvart       | (4) [å:] torsk   | hjort                 |
| (5) [α:] bare  | vare        | (5) [å:] tåre    | båre                  |
| (6) [α:] barre | hvarre      | (6) [å:]         | 'a <sub>1</sub> borre |
|                | barme farce |                  | vorte horde           |
| (7) [α] par    | var [彫]     | (7) [å] vor      | for                   |

上例の分類は次のことに基づく。

- (1) 本来の長母音, stød を伴う長母音で終わる;
- (2) 本来の長母音, 長母音 + 無声子音で終わるが, 母音は stød を伴う;
- (3) 本来の長母音または短母音, /r/+ 有声子音のため, 母音は stød を伴う;
- (4) 本来は短母音, /r/+ 無声子音のため, 母音は stød を伴わない;
- (5) 本来の長母音, 2 音節語;
- (6) 本来は短母音, 2 音節語;
- (7) 本来の短母音, /r/ の後に子音が後続しない場合, 長母音状音とはならない。

[α', α:], [å', å:] の場合に限らず, “短母音 + /r/ [ɹ]” で終わる場合, [ɹ] に stød が起こらないことはよくあるが, この stød の有無の現象を除くと, 現今では (1)~(6)には長母音状音が用いられるので, 長母音 /a:r/, /å:r/ の実現形と解釈するのが妥当であろう。(7)だけが短母音状音で発音されるので, これは短母音 /ar/, /år/ の実現形である。しかし, 強強勢音節中で /ar/, /år/ であるのは, 各々 kar, par, var (være の過去形), vor および for (前置詞, 副詞, 接続詞) のみであり, 合成

形は別として、多音節形には現れない。

(4)および(7)の形が本来短母音である証拠として、SDU の明瞭形ではこれらを各々無声の [α̥], [ḁ̄] としている。([α], [ā] 以外の短母音の後で、r の後に無声子音が後続するときにも r に無声化は起こると記述されているが、これは [ɹ̥] と表記されている。) しかしながら、この無声の r は実際には稀であろう。PMH をはじめ、その他の諸家では無声の r は一切示されていない。この点では(4)は /ar/ とすることも可能であろうが、現実には長母音状音のみが用いられることから、やはり上述のように /a:r/, /ā:r/ とする。

上述の解釈に従うと、次に示す本来の長母音音素と本来の短母音音素は中和することになる。

|                 |                                 |                 |                   |
|-----------------|---------------------------------|-----------------|-------------------|
| /a:rə/ [-a:α] { | bare    spare<br>barre   sparre | /ā:rə/ [-ā:ā] { | bāre<br>'a, borre |
|-----------------|---------------------------------|-----------------|-------------------|

〈-rre〉の前の母音が本来は短母音であることは、他の短母音と比較してみると、よくわかる。

狭口長母音: svire [svi:ɔ]      bestyre [be'sdy:ɔ]      kure [ku:ɔ]

短母音: svirre [sviɔ]      forstyrre [få'sdyɹ'ɔ]      kurre [kuɔ]

広口長母音: hære [hæ:ɔ, hæ:ɔ]      døre [名] [dö:ɔ, dö:ɔ]

短母音: herre [hæɔ, hæ:ɔ]      tørre [töɔ, tö:ɔ]

SDU では、上例の [ɔ] の前の短母音の長音化形は示されていない。PMH では、狭口短母音の後では SDU と同じであるが、非狭口母音の後では、[-āɔ, -ā:ɔ], [-öɔ, -ö:ɔ] のように短音形と長音形が示されている。SDU Nummerhenvisninger nr. 10 によれば、狭口母音、非狭口母音に関係なく、俗語的な発音および unge の発音では“短母音+[ɹ]”は長母音状音になるとされる。また、DR: 255 によれば、この長音化は「調査期最後の10年」、すなわち1945年頃以降生まれの話者の発音に現れてきた。B-C: 94 でも同様の記述がなされている。

PMH に従えば、[α:, α'], [ā:, ā'] の場合と同様に、非狭口母音では長・短母音の /r/ の前での音声的中和は起こりうることになる(上例中の第2発音形)。この長音化は /ə/ が後続した場合にのみ起こる音声レベルでの長音化で、たとえば harde [hāɹdə], tørne [töɹnə] のように、/r/ の後に子音が後続する場合には起こらない。

このように、いくつかの“短母音+r”で長音化が起こり始めているわけであるが、[α:], [ā:] の場合は全ての世代で長音形となったことになる。

[α:], [α], [ā:], [ā] を各々独立の音素 /a:/, /a/, /ā:/, /ā/ と解釈することもできよう。Basbøll & Wagner ではこの解釈を採っているが、“a”, “ā”の解釈が本稿とは異なるので、単純には比較はできない。本稿では、/r/ はあらゆる母音音素の後に現れるという体系的均斉を考慮して、/a(:)r/, /ā(:)r/ を選択する。

### 3.7. 二重母音

#### 3.7.1. 音声的二重母音

次節で述べる文体的短音化との関連で、二重母音の整理を行う。二重母音は音声的単位とする。二重母音の第1要素は短母音状音で、短母音の実現形である。これは長音化することはない。第2要素は [j] または [w] である。[j] は子音音素 /j/ の、[w] は /v/ (ごく少数の形態音韻的交替のある語形では /g/) の実現形で、母音音素のそれではない。第2要素の [w] はほとんど全ての短母音と結合するが、[j] は [uj] の2語を除き、半広口および広口母音とのみ結合する。これらの二重母音第2要素の [w], [j] は脱落することはない、また [w] は [v] になることもない。

#### 3.7.2. [j] に終わる二重母音

/aj/ [αj]: mig leg dej tegn streg leje sejle

/oj/ [oɰj]: møg løg støj døgn strøg løje søjle

([α] の音価については § 3.3 参照; 音素 /o/ は § 3.5 の解釈 II による。) この2種の二重母音が典型的な [j] の二重母音で、以下は稀なものである。

/uj/ [uj]: huj [huj], huje [hujə] の2語のみ。

/æj/ [æj]: baby [bæjbi], lady [læjdi], shaver [ʃæjvo],

breakdown [ˈbræjɡɪdaʊn], etc.

[æj] は英語からの少数の借用語に現れる。(この [æj] は、とくに ældre では [æ:] になることもよくある。[æ:] の場合は /æ:/ ということになる。したがって、この世代では、これら借用語は /æj/, /æ:/ の2形をもつことになる。)

#### 3.7.3. [w] に終わる二重母音 (1)

[j] の二重母音と同様に、第1要素の母音は半広口・広口母音が典型的である。

/av/ [αw]: dav hav tavs sogn hagle ravn

/ov/ [oɰw/āw]: dog hov sovs sogn skovl rogn

([α] の音価については § 3.3 参照; 音素 /o/ は § 3.5 の解釈 II による。)

/æv/: X[æw]: ævl levne evne kævle hævde

R[äw]: trævl revne revse revle

/öv/ X[öw]: øv, høvl, søvn, støvle, etc.;

R[öw]: drøv, vrøv, vrøvle, etc.

#### 3.7.4. [w] に終わる二重母音 (2)

§ 3.7.3 の場合とは異なり、以下に示すものは、頻度が低いあるいは短音化母音であるなど、何らかの意味で典型的な二重母音ではないものである。(1)は第1要素の母音が本来の短母音または短音化母音とは言い切れないもの、(2)のそれは短音化母音。)

- /iv/ [iw]: (1) tvivl, tvivle;  
 (2) ivrig, ivre (cf. iver [i'vɔ, i'wɔ]), livlig, 'liv<sub>1</sub>ret  
 (cf. liv [li'v, liw']), stivne (cf. stiv [sdi'v, sdiw']).
- /ev/ X[ew]: (1) peber ['pewɔ], pebre ['pewrɔ], Pebling ['pewlɛŋ],  
 -lev [-lew];
- R[æw]: (2) brevkort ['bræw<sub>1</sub>kâ:d] (cf. brev [bræ'v, bræ'w]), etc.;  
 cf. /æv/: X[æw]/R[äw] (⇒3.7.3).
- /yw/ [yw]: (1) syv, lyv; (2) tyvte ['tywdə] (cf. tyv [ty'v, tyw']).
- /øv/ [øw]: (1) øvrig, øvre, ma'nøvre; cf. /öv/: X[öw]/R[öw] (⇒3.7.3);  
 (2) (⇒3.4.1) 'dø<sub>v1</sub>bleven (cf. døv), 'lø<sub>v1</sub>fald (cf. løv),  
 'slø<sub>v1</sub>sind (cf. sløv), 'stø<sub>v1</sub>suger (cf. støv).
- /åw/ [åw]: (1) fjog, fog;  
 (2) (⇒3.5.3) sproglig (cf. sprog), togplan (cf. tog),  
 kogsalt (cf. koge), vågne (cf. våge).

### 3.7.5. その他の二重母音

[j], [w] は接近音であるが、このほか [ɹ], [ð] も接近音である。それゆえ、“短母音状音 + [ɹ]/[ð]” も二重母音状音とみなすことも可能であろう。“短母音状音 + [ɹ]” の語、たとえば bær [bâɹ] の単数既知形は bærret [bâɹ'ɔð, bâ'ɔð] になる。つまり、bærret では /rə/ の前で短母音に音声的長母音状音化が起こりうる (⇒3.6 末尾)。このように、“短母音状音 + [ɹ]” に終わる二重母音の第1要素になる母音は常に短母音状音で実現されるわけではないので、本稿では二重母音とはみなさない。しかしながら、hverv [vâɹ'w] および hverve [vâɹwə] では [ɹw] の前の [â] は長母音状音化することはないので、短母音の実現形ということになり、この [âɹw] を「三重」母音として認めるべきであろう。

[ð] はすべての長・短母音の直後に現れうるので、“短母音 + [ð]” を二重母音と認めるのは妥当とは言えない。

### 3.8. 長母音状音の短母音状音化 — 文体的短音化

デ語の長母音音素は、当然のことながら、原則として長母音状音で発音される。

bi [bi:], te [te:], sy [sy:], sø [sø:], to [to:], få [få:],  
 skib [sgɪ'b], væg [væ'g], chef [ʃæ'f], hæs [hæ's], sol [so:l],  
 lim [li'm], lun [lu'n], kløe [klø:ə], stue [sdu:ə], købe [kø:bə],  
 læse [læ:sə], tale [tâ:lə], dame [dâ:mə], kone [ko:nə], etc.

しかし、長母音の実現形は、ある一定の音環境では短音化することがある。すなわち、長母音は同一音節中の接近音 [-ð, -j, -w, -ɹ] の前では随意的に短音化することがあり、これはとくに単音節語中でよく起こる。短音化しても、その音質は原則と

して変わらないと言われる (DR: 221ff.; SDU Nummerhenvisninger nr. 8, 9; Basbøll & Wagner 参照). そのため, この短音化は「文体的短音化」(Basbøll & Wagner: “stilistiske Kürzung”) と呼ばれることもあるが, 単なる短母音音素化なのか, 短母音音素化なのかについては議論の余地がある. なぜなら, 長母音音素の長音形が短音化すると, 短母音音素および短母音音素には stød は起こらないので, stød は接近音の後に移る. この現象から見ると, 文体的短音化は音韻的に短音化するようにも見えるが, 短音化した [ä] (←/a:/) の場合には明らかに長母音音素の実現形の音質を保っている. また, この短音化は必ず起こるというわけでもない.

上述のように, 単音節語におけるこの短音化はかなり一般的な現象と思われるが, PMH および SDU の標準表記を見ると, これが必ずしも明瞭に現れていない場合も多い. SDU では同じ音韻的条件で短音化が表記されている場合といない場合がある (但し, 短音化が表記されていない場合でも, 発音形の右肩に “8” とあり, これは Nummerhenvisninger nr. 8 を示し, そこで短音化の可能性は述べられている). このことと語の使用頻度とは必ずしも関係していないことは下記の例からもわかる. PMH の表記ではむしろ短音化形が示されていない場合の方が多い. 短音化が示されているのは次の場合である. 狭口母音は [ø] の前では長音形はまったく見られず, すべて [-iø', -yø', -uø'] であるが, その他の場合, すなわち “非狭口長母音+[ø]” はすべて長母音音素形である. (Basbøll 1969: 34 では [ø] の前には長母音音素は起こらないと記述されている.) PMH に戻るが, [j] の前ではすべて “長母音音素+かっこ入り [j]” である: たとえば eg [e:(j)], [w] の前では [-iw', -yw'] ([-uw'] は現実にはない) を除き, すべて長母音音素形である. ([w] は大多数の場合, <v> /v/ の実現形で [v] と交替可能な [w] である. [v] の前の長母音音素は短音化されない. このほか, [w] になるものとして, <g> 綴りのものが少数ある. これは [v] との交替はなく, 常に [w] になる /g/ の実現形のひとつである.) [ɹ] の前では [äɹ'], [öɹ'] の短音化形が見られるが (⇒2.2, 2.4.2), その他の場合には長母音音素形のみが示されている.

このようなわけで, 以下に示す長母音音素形および短母音音素形は SDU からの例である. PMH の表記は語によって表記が異なるということはないので, 右端の欄に “母音+接近音” のみを示す (語の右肩の \* は唯一の例 (の可能性のあるもの)).

| SDU: 長・短母音音素                  | SDU: 長母音音素のみ              | PMH     |
|-------------------------------|---------------------------|---------|
| hvid [vi'ð, við']             |                           | [-iø']  |
| lyd [ly'ð, lyð']              |                           | [-yø']  |
| hud [hu'ð, huð']              | brud* [bru'ð]             | [-uø']  |
| hed 𐌺 [he'ð, heð']            | ed [e'ð]                  | [-e'ð]  |
| vred [vræ'ð, vræð']           |                           | [-ræ'ð] |
| sæd <sup>1</sup> [sæ'ð, sæð'] | sæd <sup>2</sup> * [sæ'ð] | [-æ'ð]  |
| flad [flä'ð, fläð']           | lad 𐌺 [lä'ð]              | [-ä'ð]  |

(brud <花嫁>, <イタチ>, sæd<sup>1</sup> <種子>, sæd<sup>2</sup> <慣習>)

| SDU: 長・短母音状音                  | SDU: 長母音状音のみ            | PMH    |
|-------------------------------|-------------------------|--------|
| sød [sø'ð, søð']              | gød* [gø'ð]             | [-ø'ð] |
| rød [rø'ð, røð']              |                         | [-ö'ð] |
| rod <sup>1</sup> [ro'ð, roð'] | rod <sup>2</sup> [ro'ð] | [-o'ð] |
|                               | råd [rå'ð]              | [-å'ð] |

(rod<sup>1</sup> <乱雑>, rod<sup>2</sup> <根>)

grad [gra'ð] などの [ra:] は短音化しない。なお, ud [uð'] は SDU でも PMH でも短母音状音形しか示されておらず, 現在では長母音状音形の [u'ð] は存在しないことになる。したがって, これは短母音音素の実現形ということになる。

| SDU: 長・短母音状音                     | SDU: 長母音状音のみ                      | PMH          |
|----------------------------------|-----------------------------------|--------------|
| eg [e'j, ej']                    |                                   | [-e' (j)]    |
| læg ㊦ [læ'j, læj']               | klæg ㊦ [klæ'j]                    | [-æ' (j)]    |
| slag [slå'j, slāj']              | plag [plå'j]                      | [-å' (j)]    |
| bøg [bø'j, bøj']                 |                                   | [-ø' (j)]    |
| kniv [kni'v, kniw']              | kiv [ki'v, ki'w]                  | [-i'v, -iw'] |
| liv [li'v, liw']                 | naiv [na'i'v, na'i'w]             | [-i'v, -iw'] |
| tyv* [ty'v, tyw']                |                                   | [-y'v, -yw'] |
| elev [e'le'v, e'le'w,<br>e'lew'] |                                   | [-e'v, -e'w] |
| skæv [sgæ'w, sgæw']              | gæv [gæ'v, gæ'w]                  | [-æ'v, -æ'w] |
| døv [dø'v, døw']                 |                                   | [-ø'v, -ø'w] |
| lav ㊦ [lå'v, låw']               | jugoslav [jugo'slå'v,<br>-'slå'w] | [-å'v, -å'w] |
| klog [klå'w, klåw']              |                                   | [-å'w]       |
| læg [lå'w, låw']                 | åg* [å'w]                         | [-å'w]       |
| spir [sbi'ɹ, sbiɹ']              | sir* ㊦ [si'ɹ]                     | [-i'ɹ]       |
| ler ㊦ [le'ɹ, leɹ']               |                                   | [-e'ɹ]       |
| svær [svæ'ɹ, svæɹ']              |                                   | [-æ'ɹ, -åɹ'] |
| sværd [svæ'ɹ, svæɹ']             |                                   | [-æ'ɹ, -åɹ'] |
| dyr [dy'ɹ, dyɹ']                 |                                   | [-y'ɹ]       |
| mør [mø'ɹ, møɹ']                 | bør ㊦ [bø'ɹ]                      | [-ø'ɹ]       |
| dør ㊦ [dø'ɹ, døɹ']               |                                   | [-ö'ɹ, -öɹ'] |
| sur [su'ɹ, suɹ']                 |                                   | [-u'ɹ]       |
| kor [ko'ɹ, koɹ']                 | hor [ho'ɹ]                        | [-o'ɹ]       |
| bord [bo'ɹ, boɹ']                |                                   | [-o'ɹ]       |

この文体的短音化の結果による短母音状音は短母音音素の実現形と解釈するのが本稿の主旨に沿うのかもしれないが, PMH では短音化形がほとんど示されないことと, この短音化が随意的な可能性が十分あるので, これは, /ə/ 同化規則 (⇒4) などと同様に, (音韻レベルではなく) 音声レベルの規則とする。しかしながら, これらの

短母音状音を短母音音素の実現形として扱っても、次節で述べる一点を除き、本稿で述べた短母音の記述に当てはまる。

なお、文体的短音化は次の場合には起こらない。(1) 長母音の後の [j] が脱落した場合、たとえば bøg [bøː(j)] が [bøː] になる場合。(2) /v/ が [w] とならず、[v] のままのとき。たとえば elev [eˈleːv, eˈleːw] では [eˈleːv] 形の [eː] は短音化しない。

### 3.9. 短母音のまとめ

短母音音素の一般的な解釈は、強強勢音節に現れる短母音およびその実現形である短母音状音の分布および対立のみを扱っている。本稿では短母音音素を一般的なデ語音韻論で解釈されているものより拡大して取り扱ってきた。その目的は、SDU や PMH の発音辞典で短母音状音で表記されている音形をできるだけそのまま短母音の実現形として扱うことによって、音素とその実現形の対応が簡単にわかるようにするためである。また、本稿の解釈は強強勢音節のみではなく、弱強勢音節に現れる短母音(状音)にも適用できる。

しかしながら、未解決の問題がある。それは /a:/, /a/ に関わることである。長母音 /a:/ は非R環境では [ā:] であるが (⇒2.3), これが短音化すると [ā] となる。[ā] も短音化母音として現れうる。筆者が調査したかぎりでは、この [ā] は次の語に現れうる。

smagfuld ['smā:j,ful', 'smāj-] (SDU), ['smā:j-, 'smāw-] (PMH),  
svagsynet ['svā:j,syːnəð, 'svāj-] (SDU), ['svā:(j)-] (PMH),  
plagsom ['plā:j,som', 'plāj-] (SDU), ['plā:(j),som'] (PMH),  
foretagsom [ˌfā:āˈtājˈsom', fāā-] (SDU), [fāāˈtāː(j)som'] (PMH),  
forslagsstiller [ˌfā:slājˌsdelo, 'fāslā-, 'fāsla-] (SDU), (PMH には記載されていない)。

PMH では短音化はないとしているが、SDU では短音化形が示されている。これらの [ā] を X\_\_X 環境にあてはめると、§3.2.3 の解釈 B として示した前舌非円唇短母音の4番目の音素 /ä/ の実現形ということになるが、この解釈は正しいあるいは妥当だとは思われない。

上述のように、本稿の短母音は弱音節中に現れる場合にもほとんど当てはまるが、[a], [α] に関しては当てはまらないものが少数ある。§3.3 で /a/ の実現形分布規則では処理できない例外を認めたが (aldrig [αldri] など)、弱音節の [a], [α] の場合には子音音韻論に関係する音節境界などを考慮しなくてはならない。音節境界の問題は Basbøll 1972: 189f. で一見整然と扱われているが、Hansen 1979 の批判があるように、解決されてはいない。短音化母音としての [ā] については未解決の問題として残すが、いずれにせよ、これは /a:/ または /a/ の問題として処理すべきであろう。

## 4. 弱母音 /ə/ の実現形

### 4.1. 序

弱母音 /ə/ (schwa; シュワー) は原則として [ə] で実現されるはずであるが、非常に弱い音であるため、現実には隣接音に同化されて様々な音で実現されることになる。[ə] に隣接する音が [ə] と同一音節に属さない場合もある。/ə/ は脱落することなくはないが、その「音節性」は音韻的にも音声的にも重要であるので、ふつうは同化した音が代わりに音節性を保持する。/ə/ 同化は音声レベルの規則であるが、これは重要な規則であり、また SDU の第3形以下ではこの /ə/ 同化形が用いられていることから、ここで取り上げることにする。( /ə/ の同化については、T/T: 145ff.; Brink & Lund 1974: 24ff.; DR: 191f.; SDU Nummerhenvvisninger nr. 1-4などを参照した。)

### 4.2. /r/ に隣接する /ə/

#### 4.2.1. /-ər, -rə, -rər, -rərə/

/r/ に隣接する /ə/ は、/r/ の影響で強制的に ([ɹ]→) [ɔ] になる。

同時に、/r/ 自身も変化をこうむる。/-rə/ の /r/ は、先行音が子音なら、音節頭に立つことになり、原則として [r] のままで実現される: [rə]→[rɔ]。しかし、先行音が母音ならば、独立の音として発音されず、/ə/ と融合して1個の音になる。すなわち [ɹə]/[ɹɹ] → [ɹɹ]/[ɹɹ] → [ɹ] → [ɔ, ɑ, ɔ̃]。この [ɹ] は上述のようにふつうは [ɔ] であるが、[ɑ(:), ɔ̃(:)] の後では、これらの音に同化されて [ɑ], [ɔ̃] になる。たとえば bare ([bɑ:ɔ̃]→) [bɑ:ɑ], bære ([bɑ:ɔ̃]→) [bɑ:ɔ̃]。

以上のことをまとめると、次のようになる (V=母音, C=子音)。

|               | V__                 | C__               |
|---------------|---------------------|-------------------|
| /ə/ → [ə]     | true [tru:ə]        | klatte [kladə]    |
| /ər/ → [ɔ]    | truer [tru:ɔ]       | klatter [klado]   |
| /rə/ → [ɔ]    | lære [læ:ɔ]         |                   |
| → [rɔ]        |                     | klatre [kladro]   |
| /rər/ → [ɔ]   | lærer [læ:ɔ]        |                   |
| → [rɔ]        |                     | klatrere [kladro] |
| /ərə/ → [ɔ̃]  | tidligere [tiðliɔ̃] | senere [se:nɔ̃]   |
| /rərə/ → [ɔ̃] | lærere [læ:ɔ̃]      |                   |
|               | [rɔ̃]               | tømrere [tömro]   |

true [tru:ə] などの [ə] はさらに周囲の音に同化するが、これについては § 4.3 で述べる。

#### 4.2.2. /-rə/→[(r)ɔ] /C\_\_

/rə/ に先行する子音が [j, w, ɔ] 以外の場合には、次のようになる。

[rɔ]: klapre, e'robre, glitre, ordre, sludre, sikre, ofre, pansre,  
vimre, fingre, genre [ʃɑnrɔ], skilre, etc.

/rə/ の /r/ の前に子音があっても、[r] は脱落することがある。これは使用頻度の高い語によく起こる。SDU によれば、

andre [ʌnd(r)ɔ], venstre [vənsd(r)ɔ], ældre [æld(r)ɔ]

などでは、単なる [r] の脱落となっているが、[r] が脱落すると、ふつうは /r/ に先行する子音が長く発音される。

fingre [fɛnrɔ] → [fɛŋ:ɔ], gnistre [gnisdɔ] → [gnisd:ɔ].

[ɔ, j, w] の後の /r/ は、多少事情が異なる。[ɔ, j, w] は接近音で、子音的にも母音的とも言えるため、これらの音が子音と見なされると、/r/ は後続の /ə/ を含む音節の音節頭と見なされて [r] のままであるが、これらの音が母音的とみなされると、§ 4.2.1 の場合と同様に、/r/ は脱落する。[r] が脱落すると、その代わりに接近音は長音化する。

bedre [bæðrɔ] → [bæð:ɔ]; fejre [fæjɔ] → [fæj:ɔ], sejre [sæjɔ] → [sæj:ɔ], højre [højɔ] → [høj:ɔ]; flagre [flæwrɔ] → [flæw:ɔ], havre [hæwrɔ] → [hæw:ɔ], snævre [snæwrɔ] → [snæw:ɔ], ivre [iwɔ] → [iw:ɔ], pebre [pewɔ] → [pew:ɔ], etc.

#### 4.2.3. /ə/ 対 /rə(r)/, /ər/ の実現形

たとえば、/ə/ に終わる名詞あるいは動詞などに /r/-形の複数語尾または現在形語尾が付加されると、/ə/ 対 /ər/ は [ə] 対 [ɔ] で実現される。

vase /va:sə/ → [vɑ:sə]                      elske /ælskə/ → [ælsɡə]  
vaser /va:sər/ → [vɑ:sɔ]                      elsker /ælskər/ → [ælsɡɔ]

母音後の /r/ 対 /rə(r)/ は [ɹ] 対 [ɔ] である。

tur /tu:r/    [tu:ɹ]  
ture /tu:rə/ [tu:ɔ]  
turer /tu:rər/ [tu:ɔ]

なお、/r/ の /ə/ に対する影響は、次のように音節境界を越えても起こりうる。

maleri [ɪmɑ:lə'ri:] → [ɪmɑ:lɔ'ri:].

#### 4.3. その他の環境に現れる /ə/

上述のように、/ə/ の実現形である [ə] は非常に弱い音であるので、[ə] 以外の様々な音で実現されるが、以下の場合は /r/ に隣接する場合とは異なり、必ずしも



## 5. 例語リスト

- \* 例語中の日本語訳は単なる目安のためであるので，なるべく短い訳語となるものを，また，同音異義語は任意の1個を選んだ．
- \* 見出し語の右肩の \* は「屈折形」を示す．屈折形の訳語は，音声表記の後に原形を示し，その原形の意味を示す（原形の発音表記は原則として行わない）．例：  
bussen\* [busən] bus バス．但し，原形が見出し語として記載されている場合は，⇒ で「原形参照」を示す．例：har [hɑː] ⇒ have．
- \* 音声表記の右肩の \* は「文体的短音化形」(⇒3.8)を示す．但し，これは SDU の第3形として短音化形が示されているものに限る．(PMH で狭口母音が短音化形で示されている場合は，そのまま短音化形を示す．) 当然ながら，これはリスト中の長母音形にのみ適用される．なお，[j] の前の長母音は，[j] が脱落するときには短音化しない．また，[v] の前の長母音も短音化しない (⇒3.8 末尾)．

aborre ['a<sub>1</sub>bɑːd] (魚) パーチ  
 absurd [ʌb'suːd] 愚かな  
 agurk [a'guːg] キュウリ  
 ahorn ['a<sub>1</sub>hoːn] カエデ  
 al [al'] 全て(の)  
 alder [al'ɔ] 年齢  
 aldrig [ʌldri] 決して…ない  
 alt\* [al'd] ⇒ al  
 ambassadør [ʌmbasa'døːɹ]\* 大使  
 anden [ʌnən] ほかの  
 anderledes [ʌnɔ'leːðəs] 別の方法で  
 Anders [ʌnɔs] (男子名)  
 Andersen [ʌnɔsən] (姓)  
 andet\* [ʌnəd] ⇒ anden  
 andre\* [ʌndrɔ] ⇒ anden  
 arg [ɑːw] よこしまな  
 baby [bæjbi] 赤ん坊  
 bag [bɑː(j)] …のうしろに  
 bakke [bægə] 丘  
 balde [balə] 臀部  
 bar [bɑː] むき出しの  
 bare [bɑːɑ] 単に  
 bark [bɑːg] 樹皮  
 barme\* [bɑːmə] barm (女性の)胸  
 barn [bɑːn] 子供  
 barre [bɑːɑ] 棒  
 base [bɑːsə] 基地  
 bedre [bæðrɔ] より良い  
 bestyre [be'sdyːɔ] 運営する  
 bi [biː] 蜜蜂  
 bjerg [bjæɹ'w] 山  
 blist [blisɔ] 口中のはれ

blodløs ['bloðlɔːs] 貧血(症)の  
 blodpølse ['bloðipølsə] 豚の血の入ったソーセージ  
 blæst [blæsd] 強風  
 bofast [boːfasɔ] 定住した  
 bog [bɑːw]\* 本  
 boghandler ['bɑwˌhanlɔ] 本屋  
 boglig [bɑwli] 理論的な，机上の  
 bom [bɑm'] (遮断)棒  
 bombe [bɑmbə] 爆弾  
 bombe [bɑmə] (織機の)糸巻き  
 bommert [bɑm'ɔd] 大失敗  
 bonde [bɑnə] 農夫  
 bord [boːɹ]\* テーブル  
 bordsalt ['boɹˌsal'd] 食卓塩  
 bore [boːɔ] 穴をあける  
 bornert [bɑːneɹ'd] 度量の狭い  
 bort<sup>1</sup> [boɹ'd, boːɹd] ふち(かざり)  
 bort<sup>2</sup> [bɑːd] 離れて  
 brag [bræːw] 轟音  
 breakdown ['bræjgɔˌdɔwn] 神経衰弱  
 brev [bræːv, bræːw]\* 手紙  
 brevkort ['bræwˌkɑːd] 葉書  
 briller [brælo] めがね  
 brint [bræn'd] 水素  
 brombær ['brɑmˌbæɹ] クロイチゴ  
 bror [broɹ, broːɹ] 兄，弟  
 brud [bruːð] 花嫁；(動) イタチ  
 bryllup [brölåb] 結婚式  
 brynde [brønə] 情欲  
 brynje [brynjə] くさりかたびら  
 brysk [brysg] ふっきらぼうな

bryst [brösd] 胸  
brøst [brösd] 瑕, 欠陥  
bue [bu:ə] 弓  
bure\* [bu:ɔ] bur 鳥かご, 檻  
bureau [by'ro] 事務所  
bussen\* [busən] bus バス  
byde [by:ðə] 命令する  
byen\* [by:ən] by 市, 町  
byrde [byɾdə] 重荷  
bælle [bælə] ～ i sig ぐい飲みする  
bær [báu] ベリー  
bærret\* [báu'ɔð, bā'ɔð] ⇒ bær  
bøde [bø:ðə] 罰金  
bøg [bø:(j)]\* ブナの木  
bøh [bø:] 圃(牛の鳴き声), (子供など  
をおどかす発声)  
bøhland ['bø:lan'] 片田舎  
bøhmand ['bø:man'] 子供をおどかす人  
Bøhme [bø:mə] (姓)  
Bøhmen [bø:mən] ボヘミア  
bøhmer [bø:mə] ボヘミア人  
bøhmisk [bø:misg] ボヘミアの  
bør<sup>1</sup> [bø:ɹ] 順風  
bør<sup>2</sup>\* [böɹ] burde …するのが当然である  
børn\* [böɹ'n] ⇒ barn  
børs [bøɹ's] 株式取引(所)  
båd [bå:ð] 舟, 船  
både<sup>1</sup> [bå:ðə] ～ og …もーも  
både<sup>2</sup>\* [bå:ðə] ⇒ båd  
båd(s)anker ['bå:(s)ð(s), ɔngə] 錨  
båre [bå:å] 担架  
charmeur = charmør  
charmør [ʃɑ'mö:ɹ, -'mö:ɹ] 魅惑者  
chauffør [ʃo'fø:ɹ]\* 自動車運転士  
chef [ʃæ:f] チーフ  
da [da] その時  
dadel [då:ðəl] 非難  
dame [då:mə] 婦人  
damen\* [då:mən] ⇒ dame  
dav [dāw'] とんちちは  
debattør [deba'tø:ɹ]\* 討論者  
dej [dāj'] パン生地  
dessert [de'sæɹ'd, də'sæɹ'd, də'sæ:ɹ]  
デザート  
dog [dow, dāw] しかし  
donkraft ['dānkræfd] ジャッキー  
drab [drā'b] 殺害  
drøm [dröm'] 夢  
drøn [drö'n] 轟き  
drøne [drö:nə] 轟く

drønnert [drön'od, drön'od] のらくら者  
drøv [dröw] tygge ～ 反芻する  
dusør [du'sø:ɹ]\* 感謝のしるし  
dyr [dy:ɹ]\* 動物; 高価な  
dyrke [dyɾgə] 崇拜する, 耕す  
døgn [døj'n] 一昼夜  
døn [dø'n] 轟き  
dør<sup>1</sup>\* [dø:ɹ]\* dø 死ぬ  
dør<sup>2</sup> [dø:ɹ, döɹ']\* 扉  
døre\* [dö:ɔ, dö:ɔ] ⇒ dør<sup>2</sup>  
dørsalg ['döɹsal'(j), 'döɹ-] 訪問販売  
døv [dø:v, dø:w]\* 耳の聞こえない  
døvbleven ['døwble:vən, -ble:wən]  
耳が聞こえなくなった  
dåd [då:ð] 業績  
dådløs ['då:(s)lø's] 不活発な, 怠惰な  
ed [e:ð] 誓い, 宣誓  
eg [e:(j)]\* 樗  
eget\* [æjəð] egen 自身の  
eksportør [ægspå'tø:ɹ]\* 輸出業者  
eksteriør [ægsteɹi'ö:ɹ, -'ö:ɹ] 外部  
elev [e'le:v, e'le:w]\* 生徒  
elske [ælsgə] 愛する  
elsker\* [ælsgə] ⇒ elske  
end [en, æn] …よりも  
er\* [åɹ] ⇒ være  
erobre [e'ro:bro] 征服する  
evne [æwnə] 能力  
fag [få:(j)]\* 科目, 専門職  
farce [få:sə] 笑劇  
fart [få:d] 速度  
favør [fa'vö:ɹ, -'vö:ɹ] 有利  
fejre [fåjro] 祝う  
fersk [fåɹsg] 淡水の  
fingre\* [fengro] finger 指  
fire [fi:ɔ] 四  
firkant ['fiɹkan'd] 四角  
fjende [fjenə, fjənə] 敵  
fjer [fje'ɹ]\* 羽  
fjerkræ ['fjeɹkræ:] 家禽  
fjerlet ['fjeɹ'læd] 羽のように軽い  
fjog [fjåw] 愚か者  
fjorten [fjoidən] 十四  
flad [flå:ð]\* 平らな  
flagre [flawro] はためく  
flere [fle:ɔ] より多数の  
flertal ['fleɹtal] 過半数  
flertydig ['fleɹty'di] 多義の  
fod [fo:ð]\* 足  
fodgænger ['foðgængə] 歩行者

fog [fåw] ふきだまり  
 fokus [fo:kus] 焦点  
 fonetik [fonə'tig] 音声学  
 for [få] (…の)前方に; というのは…  
 forandre [få'an'drø] 変える  
 foretagsom [ˌfå:å'tå:(j),səm',  
 fåd-]\* 進取の気性の  
 forkert [få'keɹ'd] 誤った  
 forslagsstiller [ˌfå:slåj,sdelo,  
 ˌfåslå-, ˌfåsla-] 提案者  
 forstyrre [få'sdyɹ'ɔ] ジャマする  
 foto [foto] 写真  
 fra [frå:] 剛 離れる  
 fri [fri:] 自由な  
 frisør [fri'sø:ɹ]\* 理容師, 美容師  
 fromme\* [frømə] from 敬虔な  
 frø [frø:] 蛙; 種子  
 fugl [fu:l] 鳥  
 fuld [ful'] 満ちた  
 Fyn [fy'n] フーン島  
 fyr<sup>1</sup> [fyɹ] 松の木  
 fyr<sup>2,3</sup> [fy:ɹ]\* 若い男, 野郎; 火  
 fyre [fy:ɔ] 火をつける  
 fyrre [föɹɔ, fö:ɔ] 四十  
 fæ [fæ:] 愚か者  
 føhne [fø:nə] = føne  
 føje [føjə] 調子を合わせる  
 føl!# [fø:l] føle 感じる  
 følge!# [føl'(j)] følge 従う  
 føn [fø:n] フェーン現象  
 føne [fø:nə] (フェーン現象で)乾燥する  
 Fønix [fø:nigs] 鳳凰 (社名, 商標など)  
 før<sup>1</sup> [fø:ɹ] がっしりした  
 før<sup>2</sup> [fø:ɹ, fö:ɹ]\* (…の)以前に  
 føre [fø:ɔ] 導く  
 fornævnt [ˌföu,næw'nd, ˌföu-] 前述の  
 først [föusd] 第一の  
 ført\* [fø:ɹ'd] ⇒ føre  
 førte\* [føɹdə] ⇒ føre  
 få [få:] 得る  
 får\* [få:] ⇒ få  
 gade [gå:ðə] 街路  
 gamle\* [gamlə] ⇒ gammel  
 gammel [gæməl] 古い  
 generet [je'neɹ'd] 内気な  
 gennem [gæn'əm] …を貫いて  
 genre [jæŋrø] ジャンル  
 giver\* [gi:ɹ]\* give [gi:] 与える  
 gjort\* [gjo:ɹ'd] ⇒ gøre  
 glemme [glæmə] 忘れる

glitre [glidrø] 輝く  
 gnistre [gnisdrø] (目に)火花が散る  
 grad [grå:ð] 程度  
 grade [grå:ðə] 体温を計る  
 gran<sup>1</sup> [grå'n] エゾ松, トウヒ  
 gran<sup>2</sup> [græn'] 明瞭な・に  
 grelle\* [grälə] grel けばけばしい  
 gribe [gri:bə] 掴む  
 grove\* [grøwə, gråwə] grov 粗い  
 grube [gru:bə] 鉱坑  
 gruppe [grubə] グループ  
 gry [gry:] 夜明け  
 gryde [gry:ðə] 鍋  
 græde [grå:ðə] 泣く  
 grøn [grøn'] 緑の  
 grå [grå:] 灰色の  
 gurgle [guɹglə] うがいをする  
 gyde [gy:ðə] 注ぎ込む  
 gymnasium [gym'nå:jåm] 大学進学資格  
 を得ることのできる高校(課程)  
 gymnastik [gymna'sdig] 体操  
 gær [gæ:ɹ]\* イースト  
 gæv [gæ:v, gæ:w] すばらしい, 勇猛な  
 gød\* [gø:ð] ⇒ gyde  
 gøre [gø:ɔ, gö:ɔ] 行う  
 gå [gå:] 行く  
 går\* [gå:] ⇒ gå  
 hagl [haw'l] 雹  
 halen\* [há:lən] hale 尾  
 hallo [há'lo] 剛 もしもし  
 har\* [há:] ⇒ have  
 harpe [há:bə] ハープ  
 hav [haw] 海  
 have [há:] もっている  
 havre [hawrø] オート麦  
 hed [he:ð]\* 熱い  
 hedde [heðə] …と呼ばれる  
 hede [he:ðə] 熱; 荒野  
 held [hæl'] (幸)運  
 hende\* [henə] ⇒ hun  
 henne [hænə] あちらに・で  
 herre [há:ɹ, há:ɔ] 紳士  
 hest [hæsd] 馬  
 hinde [henə] 薄膜  
 hjord [jå:d] 家畜の群れ  
 hjort [jå:d] 鹿  
 honnør [ho'nø:ɹ]\* 栄誉(礼)  
 hor [ho:ɹ] 不倫  
 horde [há:də] 一団, 一群  
 horn [hou'n] つの

hov [how', hâw'] ひずめ  
 hud [hu:ð, huð'] 皮膚  
 huj [huj] i ~ og hast 大急ぎで  
 huje [hujə] わめく  
 humør [hu'mø:ɹ]\* 機嫌  
 hun [hun] (代) 彼女  
 hund [hun'] 犬  
 hundred(e) [hunrøð(ə)] 百  
 hurtig [ho:di] 速い  
 hva' [vɑ] 何 (文末に置いて) ねえ,  
 しょう  
 hvad [vɑð, va] 何  
 hval [vɑ:l] 鯨  
 hvarre [vɑ:ɑ] (魚) ヒラメ  
 hverandre [væɹ'andrø, vɑɹ-] 互いを・に  
 hverv [vɑɹ'w] 職業  
 hverve [vɑɹwə] 雇う  
 hvid [vi:ð, við'] 白い  
 hvile [vi:lə] 休息(する)  
 hyl [hy:l] 風のうなり  
 hyld [hyl'] (植) ニワトコ  
 hylde [hylə] 棚; ほめ称える  
 hyle [hy:lə] (風が)うなる  
 hymne [hymnə] 聖歌  
 hynde [hønə] クッション  
 hæl [hæ:l] かかと  
 hænde [hænə] 起こる  
 hårde [håɹdə] 硬くする  
 hære# [hæ:ɔ, hæ:ɔ] hær 陸軍  
 hæs [hæ:s] しわがれ声の  
 hævde [hæwdə] 主張する  
 højre [højɹø] 右の  
 høne [hö:nə] めんどり  
 hørbar ['høɹ,bɑ:] 可聴の  
 høre [hø:ɔ] 聞く  
 hørlig [høɹli] 聞きとれる  
 hørt# [høɹ'd] ⇒ høre  
 hørte# [høɹdə] ⇒ høre  
 høvl [höw'l] (道具) かな  
 ikke [egə, eg] …ない  
 importør [empɑ'tø:ɹ]\* 輸入業者  
 indførsel ['en,føɹsəl] 輸入  
 interiør [enteɹi'ð:ɹ, -'ð:ɹ] 内部  
 ir [iɹ] 緑青  
 iver [i'vø, i'wø] 熱心  
 ivre [iwɹø] 熱中する  
 ivrig [iwri] 熱心な  
 jern [jæɹ'n] 鉄  
 jo [jo] 副 (「同意」を求める文副詞)  
 jog# [jo:] jage 狩猟する

jogurt/yoghurt ['joɹguɹ'd] ヨーグルト  
 jugoslav [juɡo'slɑ:v, juɡo'slɑ:w]  
 ユーゴスラビア人  
 jævn [jæw'n] 平坦な  
 kan# [ka, kan'] ⇒ kunne  
 kande [kanə] ポット  
 kane [kɑ:nə] 大そり  
 kar [kɑ] 大おけ  
 kardemomme [kɑdə'måmə] カルダモン  
 Karl [kɑ:l] (男子名)  
 karl [kɑ:l] 男子, 下男  
 kendelse [kənəlsə] 判決  
 kerne [kɑɹnə] 核, 芯  
 kilden# [kilən] kilde 源  
 kiv [ki:v, kiw'] 口論  
 klandre [klandrø] 非難する  
 klapre [klæbrø] カタカタいう  
 klare [klɑ:ɑ] きれいにする  
 klatre [kladrø] 登る  
 klatrer# [kladrø] ⇒ klatre  
 klatte [kladə] しみをつける  
 klatter# [kladə] ⇒ klatte  
 klog [klɑ:w]\* 賢い  
 klogskab ['klåw,sgɑ:b] 賢明(さ)  
 klæg [klæ:(j)] ねばり気のある  
 kløe [klø:ə] むずがゆさ  
 klør [klø:ɹ]\* (トランプの)クラブ  
 kniv [kni:v, kniw'] ナイフ  
 knæet# [knæ:əð] knæ 膝  
 koble [koblə] 連結する  
 koge [kå:wə] 煮る  
 kogsalt ['kåw,sal'd] 食塩  
 kolosal [kolo'sɑ:l] 巨大な  
 komme [komə] 来る  
 kompromis [kåmpro'mi, kom-, kom-] 妥協  
 kone [ko:nə] 妻  
 kontakt [kån'tægd, kon-, kon-] 接触  
 kop [køb] カップ  
 kor [ko:ɹ]\* コーラス  
 korn [koɹ'n] 穀物  
 korporlig [kɑ'pøɹ'li] 肉体的  
 kreperlig [kræ'peɹ'li] いらいらさせる  
 kroppe# [krøbə] krop 身体  
 krybe [kry:bə] 這う  
 krølle [krölə] 縮れる  
 krønike [krøn'igə, krøn'igə] 年代記  
 kulde [kulə] 寒さ  
 kule [ku:lə] 貯蔵穴  
 kulør [ku'lø:ɹ]\* 料理用着色料  
 kunde [kånə] 顧客

kunne [kunə, ku] (… )できる  
kup [kub] 奇襲, スクーブ  
kuple [kublə] ~ sig 半球形になる  
kure [ku:ɔ] 滑る  
kurre [kuɹɔ] クーと鳴く  
kurs [kuɹ's] (舟の)進路  
kursus [kuɹsus] 講座  
kurv [kuɹ'w, kuɹ'v] かご  
kvart [kvɑ:d] 四分の一  
kyst [kɔsd] 沿岸  
kær [kæ'ɹ, kɑɹ']\* いとしい  
kærkommen ['kæɹ, kom'ən, 'kɑɹ-]  
    [例] 歓迎される  
kærlig [kɑɹli] 愛情に満ちた  
kævle [kæwlə] 丸太  
købe [kø:bə] 買う  
køle [kø:lə] 冷やす  
kølle [kølə] こん棒  
køre [kø:ɔ] 運転する  
kørsel [køɹsəl] 運転  
kørt\* [køɹ'd] ⇒ køre  
kørte\* [kørdə] ⇒ køre  
la [la] (音楽) ラ  
lad [lá'ð] 怠惰な  
lade [lá:ðə] 穀物倉庫  
lady [læjdi] 淑女  
lak [læɔ] ラッカー  
lam [læm'] 子羊  
land [læn'] 陸地  
lang [læŋ'] 長い  
lap [læb] つぎ(布)  
last [lasd] 悪癖  
lav [lá:v, lá:w]\* 低い  
lede [le:ðə] 導く  
leg [læj'] 遊び  
lege [læjə] 遊ぶ  
leje [læjə] 賃貸し・賃借り(する)  
ler [le'ɹ]\* 粘土  
lerfad ['leɹ, fað] 陶器皿  
-lev [lew] (地名の接尾辞)  
levne [læwnə] 遺す  
lide [li:ðə] 苦しむ  
lim [li'm] 糊  
linie/linje [linjə] 線  
lire [li:ɔ] (イタリア)リラ  
lirke [liɹgə] 慎重に進む  
list [lesd] 狡猾  
liv [li:v, liw'] 生命  
livlig [liwli] 生き生きとした  
livret ['liw, räd] 好物

lort [loɹ'd, lo'ɹd] 汚物  
lov [low, låw] 法  
lovlig [lowli, låwli] 法の  
lun [lu'n] 暖かい  
lund [lån'] 林  
lyd [ly'ð, lyð'] 音  
lyne [ly:nə] 稲妻が光る  
lyv [lyw'] うそ  
læg [læ:(j)]\* 俗人の  
lærdom ['læɹ, dɔm', 'lɑɹ-] 学識  
lære [læ:ɔ, lá:ɔ] 学ぶ, 教える  
lærer' [læ:ɔ] 教師  
lærer<sup>2</sup>\* [læ:ɔ] ⇒ lære  
lærere\* [læ:ɔɔ] ⇒ lærer'  
lærke [læɹgə] ひばり  
lærling [læɹlɛŋ] 徒弟  
lært\* [læɹ'd, låɹ'd] ⇒ lære  
lærte\* [læɹdə, låɹdə] ⇒ lære  
læse [læ:sə] 読む  
læsse [læsə] 荷積みする  
løg [loj'] 玉ネギ, 球根  
løje [lojə] 風がなく  
løv [lø:v, lø:w]\* 木の葉  
løvfald ['løw, fal'] 落葉  
låg [lá:w]\* ふた  
lågfad ['læw, fað] ふた付き食器  
lån [lá:n] 貸与, 借用  
male [mæ:lə] 塗る  
maleri [,mæ:lə'ri:, ,mæ:lo'ri:] 絵画  
manøvre [ma'nɔwɹɔ] 術策  
mare [mæ:ɹ] 悪夢  
masse [masə] 塊, 多量, 多数  
mele [me:lə] 粉をふりかける  
mere [me:ɔ] より多量の  
merimport ['meɹem, pɑ:d] 輸入過剰  
mig\* [mæj] jeg [代] 私  
mil [mi:l] マイル (約7.5km)  
mild [mil'] おだやかな  
mile [mi:lə] 砂丘  
mire [mi:ɔ] (測量用)標尺  
moden [mo'ðən] [例] 熟した  
modificere [modifi'se:ɔ] 修正する  
modne [moðnə] 熟す  
mole [mo:lə] 防波堤  
mon [mán] [副] …かしら  
monstro [máns'tro:] = mon  
mor [moɹ, mo:ɹ] 母  
more [mo:ɔ] 楽しませる  
morsom ['moɹ, sɔm'] 面白い  
mule [mu:lə] 打つ

munde\* [mānə] mund 口  
 mure [mu:ɔ] 煉瓦積みする  
 murre [mu:ɔ] (猫が・腹が)ゴロゴロいう  
 myrde [myɹdə] (人)を殺す  
 myre [my:ɔ] 蟻  
 mæle [mæ:lə] 声, 話す能力  
 mære [mæ:ɔ, mā:ɔ] ふしだらな女性  
 mæg [mɔ:j] 汚物  
 møh [mø:] 岡 (牛の鳴き声)  
 Møn [mø'n] メーン島  
 mønbo ['mø:n,bo:] メーン島住民  
 mønje [møn.jə, (mön.jə)] 最小限度  
 mønsk [mø:nsɔ] メーン島の  
 mønster [møn'sdɔ, (mön'sdɔ)] バターン  
 mønt [møn'd] 硬貨  
 mønte [møndə] (硬貨)を製造する  
 mør [mø:ɹ]\* (肉などが)柔らかい  
 møre\* [mø:ɔ] ⇒ mør  
 mørke [mø:ɔgə] 暗闇  
 mørne [mø:nə] 柔らかくする・なる  
 måle [mā:lə] 計測する  
 måne [mā:nə] (天体の)月  
 måre [mā:ɹ] (動物)テン  
 måtte [modə] マット  
 naiv [na'i:v, na'iw'] うぶな  
 nedbør ['neð,bø:ɹ]\*  
 (雨, 雪などが) 降ること  
 niveau [ni'vo] 水準  
 norrøn [nå'rø:n] 古西ノルド語の  
 nær [næ:ɹ, nā:ɹ]\* 近い, 近く  
 nærhed ['næ:he:ð, 'nā:-] 近接  
 nærmere\* [nā:mɔɔ] ⇒ nær  
 nærmest\* [nā:məsɔ] ⇒ nær  
 nærne [nā:mə] 近づける  
 nærsynet ['næ:ɹsy:nəð, 'nā:-] 近視の  
 nå [nå:] 到達する  
 obskøn [ɔb'sgø:n] 卑わいな  
 ofre [ɔfrɔ] 犠牲にする  
 oktan [ɔg'tā:n, ɔg-] オクタン  
 oktav [ɔg'tā:v, ɔg'tā:w, ɔg'tāw']\*  
 オクターブ  
 olympiade [olɔmpi'ā:ðə] オリンピック  
 olympisk [olɔmpisɔ] オリンピックの  
 ond [ån'] 悪い  
 onkel [ån'gəl] おじ(さん)  
 onsdag [ån'sda] 水曜日  
 oprør ['ɔb, rø:ɹ, -rø:ɹ]\* 暴動  
 ord [o:ɹ]\* 語  
 ordbog ['ɔ:ɹ,bā:w]\* 辞書  
 ordre [å'drɔ] 命令

orm [ɔ:ɹ'm] (脚のない)虫  
 pakke [pəgə] 包み  
 pansre [pansrɔ] 装甲する  
 par [pə] ペア  
 parlør [pə'lö:ɹ, -'lö:ɹ] 対訳会話帳  
 part [pə'd] 部分  
 peber ['pewɔ] 胡椒  
 Pebling ['pewlen] (地名)  
 pebre ['pewrɔ] 胡椒をかける  
 Pelle [pələ] (男子名)  
 Per [pe:ɹ] (男子名)  
 pige [pi:ə] 女の子  
 pinje [pin.jə] (南欧の)マツ科の植物  
 pinsel [pi:nsəl, pin'səl] 激痛  
 plag [plā:(j)] 若駒  
 plagsom ['plā:(j),som', 'plāj-] 面倒な  
 plateau [pla'to] 高原  
 plombe [plāmbə] (歯の)充填材  
 pløre [plø:ɔ] ぬかるみ  
 pode [po:ðə] 接ぎ木する  
 pomp [pām'b] ~ og pragt 派手な飾り立て  
 port [pɔ:ɹ'd, po:ɹd] 門  
 porter [pɔ:ɹdɔ] 黒ビール  
 portner [pɔ:ɹdnɔ] 門番  
 posør [po'sö:ɹ, -'sö:ɹ], [po'sø:ɹ]\*  
 気取り屋  
 prent [prän'd] på ~ 印刷されて  
 projektør [profæg'tø:ɹ]\* サーチライト  
 præst [præsd] 牧師  
 pude [pu:ðə] 枕  
 pund [pun'] ポンド  
 purk [pu:ɔ] 少年  
 pønse [pønse, (pönsə)] もくろむ  
 ram [rām'] にかい  
 rand [rən'] ふち, へり  
 rande\* [rənə] ⇒ rand  
 rane [rā:nə] 盗む  
 rang [ræn'] ランク  
 rase [rā:sə] 激怒する  
 rast [ræsd] 休憩  
 rat [ræd] 自動車のハンドル  
 ravn [ræw'n] ワタリガラス  
 rebe [ræ:bə] (帆)をたたむ  
 rede [ræ:ðə] 巣  
 reje [ræ.jə] 小えび  
 rest [ræsd] 残余  
 revle [ræwlə] 砂洲  
 revne [ræwnə] 割れ目  
 revse [ræwsə] 罰する  
 ride [ri:ðə] 騎乗する

rist [ræsd] 焼き網  
 ro [ro:] 平穩, 静寂  
 robe [ro:bə] ロープ  
 rod<sup>1</sup> [ro:ð]\* 乱雑  
 rod<sup>2</sup> [ro:ð] 根  
 rode [ro:ðə] ひっかき回す  
 rodløs ['roð,lø:s] 根なし(草)の  
 rogn [rɔw'n, råw'n] 魚卵  
 rom [rɔm'] ラム酒  
 rosværdig [ros'væ:di] 賞賛に値する  
 rov [rɔw, råw] 強奪  
 ru [ru:] ざらついた  
 rubbe [râbə] ~ sig 急ぐ  
 rude [ru:ðə] 窓  
 rum [râm'] 空間  
 rumme [râmə] 収容・許容する  
 ræbe [ræ:bə] げっぶをする  
 røbe [rø:bə] 暴露する  
 røde\* [rø:ðə] rød 赤い  
 rønne [rønə] あばら屋  
 rør [rø:ɹ, rø:ɹ]\* 管; 葦  
 røre [rø:ɔ, rø:ɔ] 触れる  
 rørfløjte ['rø:ɹ,flojdə, 'rø:ɹ-] 葦笛  
 rørlig [rø:ɹli, rø:ɹ-] 動産の  
 rørlægger ['rø:ɹ,lægo, 'rø:ɹ-] 配管工  
 røv [røw'] 尻  
 rå [rå:] 生の, 未加工の  
 råbe [rå:bə] 叫ぶ  
 råbte\* [rɔbdə] ⇒ råbe  
 råd [rå:ð] 助言  
 råde [rå:ðə] 支配する  
 råt\* [rod] ⇒ rå  
 sogn [sɔw'n, såw'n] 伝説  
 sejle [sæjlə] 航行する  
 sejre [sæjro] 勝利を得る  
 senere\* [se:nɔɔ] sen 遅い  
 sennep [senəb, sænəb] からし  
 shaver [ʃæjvɔ] シェーバー  
 sikre<sup>1</sup> [segro] 保証・確保する  
 sikre<sup>2</sup>\* [segro] sikker 確実な  
 sind [sen'] 心, 気質  
 sir [名] [si:ɹ] かざり  
 skabet\* [sgá:bæð] skab 戸棚  
 skar\* [sgæ:] skære 切る  
 sker\* [sgæ:ɹ]\* ske 起こる  
 skib [sgi:b] 船舶  
 skilre [sgelro] 仕切る  
 skjorte [sgjo:rdə] シャツ  
 skrabe [sgræ:bə] こすって磨く  
 skrub [sgrâb] 打つ・なぐること

skrænt [sgræn'd] 急坂  
 skrone [sgrø:nə] ほら話  
 skub [sgâb] 押し  
 skubbe [sgâbə] 押す  
 skylde [sgylə] 負っている  
 skylle [sgølə] どっと流れ出る  
 skynde [sgønə] 急がせる  
 skærm [sgâ:ɹm] 遮蔽物  
 skæv [sgæ:v, sgæ:w]\* 歪んだ  
 skønne [sgønə] 見積る  
 skør [sgø:ɹ]\* もろい  
 skørne [sgønə] もろくなる・する  
 skørt [sgö:rd] ベチコート  
 slag [slâ:(j)]\* 打つこと  
 sludre [sluðro] おしゃべりをする  
 slurk [slu:ɹg] 一呑み  
 slæde [slæ:ðə] そり  
 slør [slø:ɹ]\* ベール  
 sløre [slø:ɔ] ぼんやりさせる  
 sløv [slø:v, slø:w]\* にぶい  
 sløvsind ['sløw,sen'] 意識もうろう  
 smagfuld ['smâ:(j)ful', 'smæw-]  
 趣味のよい  
 smurt\* [smo:ɹd] ⇒ smøre  
 smurte\* [smo:rdə] ⇒ smøre  
 smør [smø:ɹ] バター  
 smøre [smø:ɔ, smø:ɔ] 塗布する  
 sno [sno:] ねじる  
 snorke [snå:gə] いびきをかく  
 snu [snu:] ずるい  
 snævre [snæwro] ~ sig ind 狭くなる  
 snøre [snö:ɔ, snö:ɔ] ひも  
 sogn [sow'n, såw'n] 教区  
 sol [so:l] 太陽  
 sort [so:rd] 黒い  
 sove [sowə, såwə] 眠る  
 sovet\* [sowəð, såwəð] ⇒ sove  
 sovs [sow's, såw's] ソース  
 spare [sbæ:ɹ] 貯える  
 sparre [sbæ:ɹ] 雁木飾り  
 spilde [sbilə] 浪費する  
 spille [sbelə] 演ずる  
 spir [sbi:ɹ]\* 尖塔  
 sporløs ['sbo:ɹ,lø:s] 足跡のない  
 sprog [sbrâ:w]\* 言語  
 sprogkursus ['sbrâw,kuisus] 語学講座  
 sproglig [sbrâwli] 言語の  
 spurgt\* [sbo:ɹd] spørge 質問する  
 spurgte\* [sbo:rdə] spørge 質問する  
 spurt [sbu:ɹd] スパート

spurte [sbuɔdɐ] スバートする  
 start [sɔɔ'd] 開始  
 stiv [sdi:v, sdiw'] 硬直した  
 stivne [sdiwnɐ] 硬くなる  
 stor [sɔɔ'u]\* 大きい  
 stormagt ['sɔɔu,magd] 強国, 権力  
 stormand ['sɔɔu,man'] 大物, 有力者  
 streg [sɔɔrɔj'] 線  
 strøg [sɔɔrɔj'] 一筆, タッチ  
 stue [sɔɔ:ə] 居間  
 stærk [sɔɔ:ɔ] 強い  
 støj [sɔɔj'] 騒音  
 støv [sɔɔ:v, sɔɔ'w]\* ちり  
 støvle [sɔɔvle] ブーツ  
 støvsuger ['sɔɔw,su:ɔ] 掃除機  
 sur [su'u]\* すっぱい  
 svagsnyet ['svå:(j),sy:nəð]\* 弱視の  
 svire [svi:ɔ] 大酒を飲む  
 svirpe [svi:ɔ] むちで打つ  
 svirre [svi:ɔ] ヒュッと飛ぶ  
 svoger [svå'wɔ, svåw'ɔ] 義兄, 義弟  
 svogre# [svåwɔ] ⇨ svoger  
 svovl [svow'l, svåw'l] 硫黄  
 svær [svæ'u, svåu']\* 重い, 困難な  
 sværd [svæ'u, svåu']\* 剣  
 sværdfisk ['svæu,fesg, 'svåu-]  
 (魚) メカジキ  
 sværdklinge ['svæu,kleɔ, 'svåu-] 刀身  
 sværhed ['svæu,he'ð, 'svåu-]\* 重いこと  
 sværvægt ['svæu,vægd, 'svåu-] ヘビー級  
 sy [sy:] 縫う  
 symbol [sym'bo:l] シンボル  
 symfoni [symfo'ni:] 交響曲  
 symmetri [symə'tri:] 対称  
 sympati [sympa'ti:] 共感  
 symposium [sym'po:ʃəm] シンポジウム  
 symptom [sym'to:m] 兆候  
 syndikat [syndi'kå:d, søndi-] 企業連合  
 syndrom [syndro'm] 症候  
 synes<sup>1</sup> [syns, syn's] 感じる, 思う  
 synes<sup>2</sup> [sy:nəs, synəs] …のようだ  
 synkope [syn'ko:bə] シンコペーション  
 synkron [syn'kro:n] 同時性の  
 syntaks [syn'tags] 統語論  
 syntese [syn'te:sə] 総合  
 syv [syw'] 七  
 sæd<sup>1</sup> [sæ'ð]\* 種子  
 sæd<sup>2</sup> [sæ'ð] 慣習  
 sær [sæ'u, sæu']\* 奇妙な, 風変わりな  
 særhed ['sæu,he'ð, 'sæu-]\* 風変わり

særkende ['sæu,kənə, 'sæu-] 特徴  
 særlig [sæu:li] 特別の・に  
 sø [sø:] 湖沼, 海  
 sød [sø'ð]\* 甘い  
 søjle [sojle] 柱  
 sønden [sønən, (sönən)] 南(に)  
 sønder<sup>1</sup> [søn'ɔ, (sön'ɔ)]  
 ~ og sammen 粉々に  
 sønder-<sup>2</sup> [søn'ɔ, (sön'ɔ)] 南の  
 søndre<sup>1</sup> [sønro, (sönro)] 南の  
 søndre<sup>2</sup> [sønro, (sönro)] 粉々にする  
 Søren [sø:ɔn, sön:ɔn] (男子名)  
 søvn [söw'n] 睡眠  
 så [so] それで  
 tab [tå:b] 失うこと  
 tage [tå:] 取る  
 tager# [tå:] ⇨ tage  
 tale [tå:lə] 話; 話す  
 tallet# [tal'əð] tal 数  
 te [te:] 茶  
 tegn [tæj'n] 記号  
 tidligere# [tiðli:ɔ] tidlig 早い  
 time [ti:mə] 時間  
 to [to:] 二  
 tog [tå:w]\* 列車  
 togplan ['tåw,plå'n] 列車時刻表  
 top [tɔb] 頂  
 torden [tɔɔdən] 雷  
 torn [tɔu'n] いばら  
 torsdag [tå:sda] 木曜日  
 torsk [tå:sg] (魚) タラ  
 tov [tow, tåw] 綱  
 tralle [tråle] 陽気に歌う  
 tre [træ:] 三  
 tres [træs] 六十  
 trikot [tri'ko] トリコット  
 trille [trile] 転がる  
 trimle [træmlə, trimlə] 転倒する  
 trin [trin] ステップ  
 trind [træn', trin'] 丸々とした  
 trist [trisd] 悲しい  
 trofast ['tro,fasd] 誠実な  
 tromle [tråmlə]  
 (ローラーで)地ならしをする  
 tromme [tråmə] 太鼓(を叩く)  
 trompet [tråm'pe:d] トランペット  
 trop [trɔb] 分隊  
 true [tru:ə] 脅迫する  
 truer# [tru:ɔ] ⇨ true  
 trup [trub] 一座

trylle [trylə] 魔法・奇術で取り出す  
 tryne [try:nə] (豚などの)鼻  
 træ [træ:] 樹木, 木材  
 træde [træ:ðə] 歩を進める  
 trælle\* [trələ] træl 奴隷  
 trævl [träv'ɫ] (生地などの)糸くず  
 tråd [trå:ð] 糸  
 trådløs ['trå(:)ð, lø:s] 無線の  
 tur [tu:ɹ]\* 散歩, 旅行  
 ture¹ [tu:ɔ] ~ om(kring) ふらつく  
 ture²\* [tu:ɔ] ⇒ tur  
 turer\* [tu:ɔ] ⇒ ture¹  
 tvivl [tviw'ɫ] 疑い  
 tvivle [tviwlə] 疑う  
 tværfaglig ['tvæɹ,fawli, 'tvæɹ-]  
 学際的な  
 tværmål ['tvæɹ,mål, 'tvæɹ-] 直径  
 tværs [tvås] ~ på 横切って  
 tyrk [tyɹg] トルコ人  
 tyrker [tyɹgə] トルコ人  
 tyst [tysd] 静まった  
 tyv [ty'v, tyw'] どろぼう  
 tyvte ['tywdə] 窃盗罪で告発する  
 tælle [tələ] 数える  
 tømrere\* [tømrə] tømrer 大工  
 tønde [tønə, (tönə)] 樽(一杯の量)  
 Tønder [tøn'ə, (tön'ə)] (地名)  
 tønder [tøn'ə, (tön'ə)] (火をつける・  
 移すための) ばくち, 付け木  
 tør¹ [tö:ɹ, töu'] 乾いた  
 tør² [töu] turde 敢えて…する  
 tørke [töugə] 干魃  
 tørne [töunə] 回る, 回す  
 tørre [töuə, tö:ɔ] 乾かす  
 tørvejr ['töu,væ:ɹ, 'töu,væɹ']\* 干天  
 tåle [tå:lə] 耐える  
 tår [tå:] 一滴  
 tåre [tå:å] 涙  
 tårn [tå'n] 塔  
 ud [uð'] 外へ  
 udvandre ['uð,væn'drə] 外国へ移住する  
 uregerlig [uræ'geɹ'li] 手に負えない  
 urt [ur'd] ハーブ  
 uterlig [u'teɹ'li, u'te:ɹli] 猥褻な  
 vagabond [væga'bæn'd] 浮浪者

valg [val'(j)] 選挙  
 vandre [vandro] 歩き回る  
 vandrer [ʎ] [vandro] 放浪者  
 var¹ [vå:] 用心深い  
 var²\* [vå] ⇒ være  
 vare [vå:ɹ] 物品  
 vase [vå:sə] 花瓶  
 vaser\* [vå:so] ⇒ vase  
 ve [ve:] 陣痛  
 vejr [væ:ɹ, vâɹ']\* 天気  
 vejrmelding ['væɹ,mæleŋ, 'vâɹ-]  
 天気予報  
 venstre [vænsdrə] 左の  
 vi(e) [vi:] 結婚式を行う  
 vigør [vi'gö:ɹ, -'gö:ɹ] 活力  
 vilde\* [vilə] vild 野生の  
 vimre [vemrə] (尾を)振る  
 vor [vå] [代] 私たちの  
 vorte [vå:də] いぼ  
 vred [vræ:ð]\* 怒った  
 vrøvl [vröw'ɫ] ばかげた言動  
 vrøvle [vröwle] ばかげたことを言う  
 væg [væ:g] 壁  
 være [væ:ɔ, vâ:ɔ] いる, ある  
 våd [vå:ð] 濡れた  
 vådfast ['vå(:)ð,fasd] 耐湿・耐水性の  
 våge [vå:wə] 眠らずに(起きて)いる  
 vågne [våwnə] 目覚める  
 yngel [øn'əl] ひな, 幼魚  
 yoghurt = jogurt  
 ældre [ældrə] 年配の  
 ævl [æw'ɫ] ばかげたこと  
 øh [ö:, ø:, ə:] [岡] エーと  
 ønske [ønsgə, (önsge)] 願望(する)  
 ør [ø:ɹ]\* 混乱した  
 øre [ø:ɔ] 耳  
 øst [øsd] 東  
 øv [öw] [岡] アー痛い  
 øvre [øwro] 上部の  
 øvrig [øwri] 残余の  
 å [å:] 川  
 åg [å:w] くひき  
 ånde [onə] 呼吸(する)  
 år [å:] 年

# Word phonology of Danish vowels

Hideo Mase

## Summary

Danish vowel phonemes and their variants are classified on the basis of the phonetic forms described in Hansen 1990 and Brink *et al.* 1991.

The main purpose of this work is to show the phoneme system of Danish vowels to foreign (Japanese) learners. Therefore, in order to simplify manifestation rules, only /r/ is taken into account as the element which influences vowel qualities.

The classification of long vowels are similar to that of Thorsen and Thorsen 1986: 138, except the interpretation of /ø:/ and /ö:/ (see § 2.4.1). It is argued that, on the basis of the word frequency, *føn*, *drøn* etc. are derived from /ø:/, while *høne* is from /ö:/, although /ö:/ is found only in *høne* and a few interjections.

Short vowels comprise both 'traditional' short vowels and morphophonemically shortened vowels. As a result, a group of speakers (say Speakers A) who have [ä] in *lærdom* and [ö] in *dørtrin*, have only /i, e, æ/ and /y, ø, ö/ respectively. But the other group of speakers (say Speakers B) have [iä], [eä], [æä] (*lærdom*) and [ä], which should be counted for the manifestation of four different phonemes, i.e. /i/, /e/, /æ/ and /ä/ (see § 3.2.3). For the same reason, the vowels of [yä], [øä], [öä] (*dørtrin*) and [ä] of Speakers B are interpreted as the manifestation of /y/, /ø/, /ö/ and /ä/ (see § 3.4.3 and also Table 5).

Short [o] and [å] are separated into two different phonemes (see § 3.5.2, 3.5.3), because [o] appears not only in the open syllable but also in the closed syllable, e.g. *port*, *orm*, *korn* etc., and some (sub)minimal pairs consisting of shortened vowels are found, e.g. *blodløs* vs. *dådløs*, *rodløs* vs. *trådløs*. Further, unstressed [o] and [å] are found in some words, e.g. [kām-, kom-] (*kompromis*), [kån-, kon-] (*kontakt*), [og-, og-] (*oktav*). As a result, four back vowels /u/, /o/, /å/ and /ɔ/ are identified.

The so-called 'stylistic shortening' is considered to be a phonetic rule.

The vowel phonemes and their variants described here can be applied to the vowels both in the stressed and the unstressed syllable, except the following two problems which are left unsolved, i.e. treatment of shortened [ä] in *smagfuld*, *plagsom* etc. and treatment of a few words with [α] in the open syllable.

## 参考文献

(外国文献の発行地は特記のないかぎり København)

- Basbøll, Hans. 1969. "The phoneme system of Advanced Standard Copenhagen", *ARIPUC* (= *Annual Report of the Institute of Phonetics, University of Copenhagen*), Vol. 3, 33-54.
- . 1970. "Notes on the phonology of Danish imperatives with a digression on vowel quantity", *ARIPUC* Vol. 4, 15-42.

- Basbøll, Hans. 1971. "A commentary on Hjelmslev's Outline of the Danish Expression System (I)", *Acta Linguistica Hafniensia* Vol. 13, 173-211.
- . 1972. "Some conditioning phonological factors for the pronunciation of short vowels in Danish with special reference to syllabification", *ARIPUC* Vol. 6, 185-210.
- . 1973a. *Konsonater (i dansk rigsmål, fonologisk set)*. (Mimeographed), Institute of Phonetics, Univ. of Copenhagen.
- . 1973b. *Diftonger (i dansk)*. (Mimeographed), Institute of Phonetics, Univ. of Copenhagen.
- Basbøll, Hans & Johannes Wagner. 1985. *Kontrastive Phonologie des Deutschen und Dänischen. Segmentale Wortphonologie und -phonetik*. Tübingen: Max Niemeyer Verlag.
- Becker-Christensen, Christian. 1988. *Bogstav og Lyd. Dansk retskrivning og rigsmålsudtale*. Bind 1. Gyldendal.
- Brink, Lars & Jørgen Lund. 1974. *Udtaleforskelle i Danmark. Aldersbestemte - geografiske - sociale*. Gjellerup.
- . 1975. *Dansk rigsmål. Lydudviklingen siden 1840 med særligt henblik på sociolekterne i København*. Gyldendal.
- Brink, Lars et al. 1991. *Den Store Danske Udtaleordbog*. Munksgaard.
- Hansen, Peter Molbæk. 1979. "A Comment on Basbøll's phonological syllabification as applied to Danish", *ARIPUC* Vol. 13, 87-120.
- Hansen, Peter Molbæk. 1990. *Udtaleordbog*. Gyldendal.
- Heger, Steffen. 1975. *Tale og Tegn*. Gjellerup.
- Rischel, Jørgen. 1969. "Notes on the Danish vowel pattern", *ARIPUC* Vol. 3, 177-205.
- . 1970. "Consonant gradation: A problem in Danish phonology and morphology", Benediktsson, Hreinn (ed.): *The Nordic Languages and Modern Linguistics*, Visindafélag Íslendinga, Reykjavík, 460-468.
- Søgaard, Helge. 1990. *Min udtale 1. Enkeltlyd - tryk - stød m.m.* Gyldendal.
- Thorsen, Nina & Oluf Thorsen. 1986. *Fonetik for sprogstuderende*. 3. reviderede udgave, 8. oplag. Københavns Universitet.
- 間瀬英夫. 1974. 「デンマーク語の母音 — 量と質の関係について — 」, *IDUN* II, 3-36.
- . 1976. 「デンマーク語の長・短母音 — 母音音長は後続子音の数から予測できるか」, *IDUN* III, 3-34.
- . 1978. 「デンマーク語母音の音長変化」, *IDUN* IV, 3-18.
- . 1990. 「Peter Molbæk Hansen 著『デンマーク語発音辞典』について」, *IDUN* IX, 93-126.
- . 1992. 「現代デンマーク語における鼻子音の前の短母音」, *IDUN* X, 139-158.
- 間瀬英夫・新谷俊裕. 1993. 「*Lær dansk* 音声表記付ワードリスト — P. M. Hansen の『発音辞典』を基礎とし, Dania 改良式 (DnMs) 発音表記法による — 」, 『大阪外国語大学論集』第9号, 77-139.

Dania 改良式音声記号 (DnMs) を用いた出版物:

- 間瀬英夫 編. 1979. 『デンマーク語会話練習帳』. 東京: 大学書林.
- 間瀬英夫・菅原邦城 編. 1981. 『デンマーク語基礎1500語』. 東京: 大学書林.
- 岡田令子・菅原邦城・間瀬英夫. 1984. 『現代デンマーク語入門』. 東京: 大学書林.